

第3章 教育訓練プログラムの実施

3.1 教育訓練プログラムの構成

新宿駅周辺防災対策協議会では、新宿駅周辺地域における効果的な災害対応能力向上のための教育・訓練プログラムとして、図 5 に示すように、1) 中心市街地や高層建物などの特性を理解し、災害や防災への関心と地域防災活動への参加を促進するセミナーやイベント、2) 自助と共助を主とした災害対応活動を実践するために必要な知識や技術を身につける講習会（トレーニング）、3) 身につけた知識や技術を活かし災害対応活動を総合的に実践できるようにする訓練、4) 訓練をふりかえり成果と課題、および改善点を認識するための検証、といった一連の学習サイクルを一年間の活動を通じて実践した。

表 1 に平成 29 年度に実施した教育訓練プログラムを示す。2017 年 6 月に開催された協議会総会における年間活動計画の方針決定を受け、7 月よりセミナー、講習会を実施し、11 月に東西エリアに分かれて総合防災訓練および防災ウィーク、12 月には訓練検証会を行った。次節以降に総会、セミナー、講習会、防災ウィークおよび総合防災訓練等の実施概要を示す。

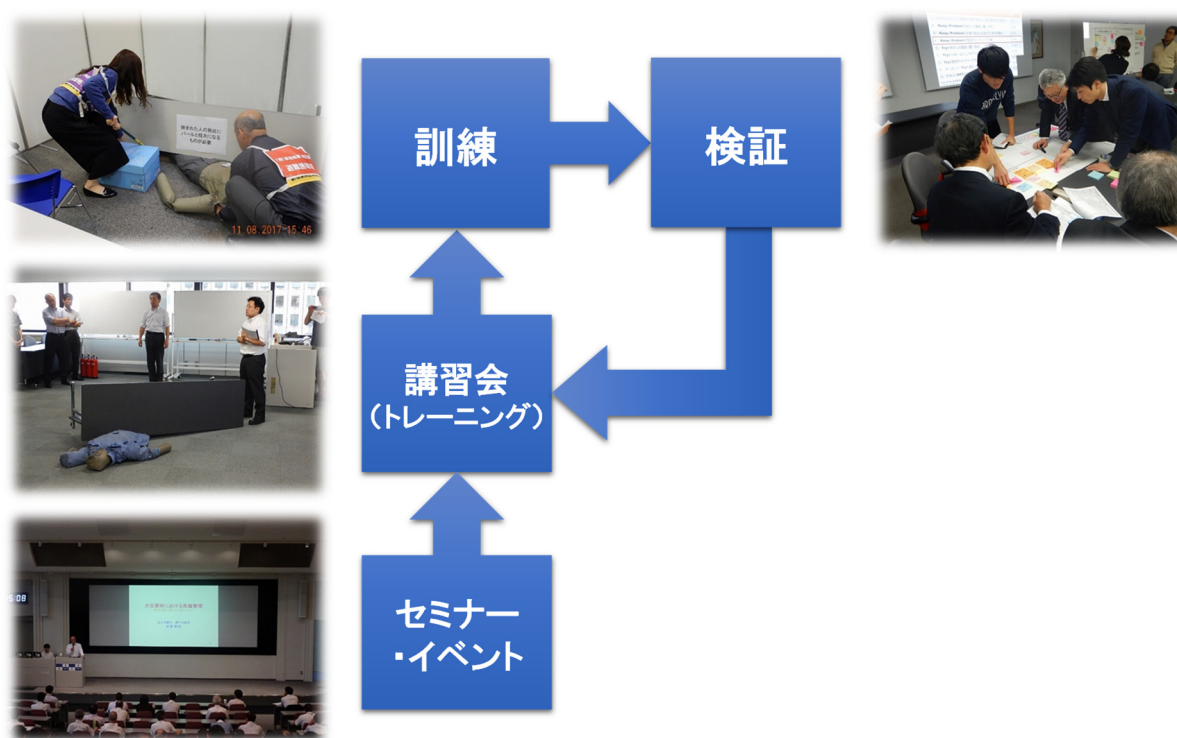


図 5 教育訓練プログラムの構成と学習サイクル

表 1 平成29年度の教育訓練プログラム

日付	項目	題目	目的	参加人数
2017 7/14	講習会	自衛消防組織の震災対応活動講習会	大規模施設の地震災害時における自衛消防活動の一連の流れ、本部隊・地区隊の役割および具体的な活動要領を学ぶ	29
7/28	第1回 セミナー	大規模震災が発生したときわたしたちはどのように行動すべきか??	過去の大規模震災に学ぶ／震災時に実践すべき行動について考える	112
8/4	講習会	応急救護講習会	災害時の応急救護に必要な基礎知識と代表的な技術を身に着ける	28
8/17	講習会	応急救護リーダー講習会	災害時の応急救護に必要な知識と技術を身に着ける／応急救護場所等での対応を効果的に行うための基本事項を学ぶ	11
9/7	訓練	新宿駅西口地域地震防災訓練（多数傷病者対応訓練）	首都直下地震発生時の混乱防止と被害軽減に向けて、地域や防災関係機関の連携強化および自助・共助を基本とする地域防災力の向上を図る	48
9/22	講習会	建物被害対応の実践トレーニング	建物被害の特長や被害の見かたを学び、「建物チェックシート」等を用いた建物調査の仕方を理解する	26
9/29	第2回 セミナー	想定される災害にいかに向かい合うか？	災害対応および事業継続の取組み事例を学ぶ	80
10/18	講習会	現地本部運営講習会	現地本部の役割や災害対応の流れ、災害・被害情報等の取り扱い方等を学ぶ	20
11/6 ～ 11/22	イベント	新宿防災ウィーク	地震災害や防災対策への関心を高める	
11/8	訓練	新宿駅西口地域地震防災訓練（自衛消防訓練・西口現地本部訓練）	首都直下地震発生時の混乱防止と被害軽減に向けて、地域や防災関係機関の連携強化および自助・共助を基本とする地域防災力の向上を図る	53
11/16	訓練	新宿駅東口地域地震防災訓練（東口現地本部訓練・負傷者対応訓練）	首都直下地震発生時の混乱防止と被害軽減に向けて、地域や防災関係機関の連携強化および自助・共助を基本とする地域防災力の向上を図る	約 150
12/8	訓練 検証会	新宿駅西口地域地震防災訓練検証会	新宿駅西口地域地震防災訓練の実施内容を振り返り、その成果と課題を検証する	28
12/13	訓練 検証会	新宿駅東口地域地震防災訓練検証会	新宿駅東口地域地震防災訓練の実施内容を振り返り、その成果と課題を検証する	22
2018 2/1	講習会	帰宅困難者一時滞在施設運営講習会	震災発生時の各施設における一時滞在施設運営の理解を深める	18
2/20	第3回 セミナー	地域防災を新宿駅周辺地域のさらなる活性化につなげよう!!	他地域における防災・まちづくりへの取組み事例を参考に、今後の新宿駅周辺地域における取組みのあり方を考える	46

※ 参加人数には運営参加者を含まない

3.2 新宿駅周辺防災対策協議会総会の概要

平成 29 年度新宿駅周辺防災対策協議会総会において、当該年度の協議会活動に係る議題の審議、平成 28 年度の協議会活動報告および平成 29 年度の活動計画案等に関する報告を行い、その後には講演を行った。以下に実施概要、総会プログラム（図 6）および実施状況（図 7）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果の概要を表 2、表 3 および図 8 に示す。

- ・ 名称：平成 29 年度新宿駅周辺防災対策協議会総会
- ・ 日時：2017 年 6 月 1 日（木）13:00～15:15
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 3 階 アーバンテックホール
- ・ 参加人数：94 名（参加団体出席 82 名、事務局 12 名）
- ・ 司会進行：新宿区危機管理担当部危機管理課 小林良幸氏
- ・ 議事概要

開会挨拶（吉住健一 新宿区長）

総会

(1) 報告

平成 28 年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動報告

- ・ 日本赤十字社東京都支部 事務局次長 宮崎明浩氏より、新宿駅周辺防災対策協議会活動報告がなされた。
- ・ 危機管理対策機構 理事・事務局長 細坪信二氏より、東口地域部会活動報告がなされた。
- ・ 工学院大学建築学部 教授 久田嘉章氏より、西口地域部会活動報告がなされた。

(2) 議案

第 1 号議案 平成 29 年度新宿駅周辺防災対策協議会 座長の選任について

- ・ 新宿駅周辺防災対策協議会 座長 宮崎 明浩氏の退任に伴う座長の選任について、事務局より、高桑 大介氏（日本赤十字社東京都支部 事業部長）とする案が示され、全会一致で承認された。

第 2 号議案 平成 29 年度新宿駅周辺防災対策協議会 副座長の選任について

- ・ 事務局より、新宿駅周辺防災対策協議会 副座長を再任する案が示され、田中 真人 氏（東京都赤十字血液センター新宿東口出張所 所長）および久田 嘉章 氏（工学院大学建築学部 教授）の再任が全会一致で承認された。

第 3 号議案 平成 29 年度新宿駅周辺防災対策協議会 構成団体名簿（案）について

- ・ 平成 29 年度新宿駅周辺防災対策協議会の構成団体について、事務局より、一般社団法人 新宿区医師会および東京建築士会新宿支部を新規協議会団体とする構成団体名簿（案）が示され、全会一致で承認された。

第 4 号議案 平成 29 年度新宿駅周辺防災対策協議会 活動計画（案）について

- ・ 鱒沢 曜氏（鱒沢工学研究所 代表）および鯨井 庸司氏（新宿区危機管理担当部危機管理課長）より、平成 29 年度新宿駅周辺防災対策協議会 活動計画（案）が示され、全会一致で承認された。

(3) その他報告事項

- ・ 新藤 淳氏（SOMPO リスケアマネジメント株式会社）より、ドローンを用いた情報収集

及び滞留者誘導実証実験報告がなされた。

- ・神谷 光隆氏（東京都総務局総合防災部防災管理課）より、東京都の民間一時滞在施設備蓄品購入費用補助事業について説明がなされた。

講演

- ・森 孝司氏（新宿区危機管理担当部長）より、「新宿駅周辺のまちづくり」と題して講演がなされ、活発な質疑が行われた。

閉会

- ・新宿駅周辺防災対策協議会 座長 高桑 大介氏より、閉会のあいさつが行われ、平成 29 年度新宿駅周辺防災対策協議会総会を閉会した。

平成 29 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 総会			
平成 29 年 6 月 1 日（木） 工学院大学新宿キャンパス 3 階 アーバンテックホール			
プログラム			
開 場	12:30		
開 会	13:00		
開会挨拶	13:00	新 宿 区 長	吉住 健一
総 会	13:10	1 報告	
		(1) 平成28年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動報告	
		新宿駅周辺防災対策協議会活動報告	
		日本赤十字社東京都支部 事務局次長	宮崎 明浩
		東口地域部会活動報告	
		危機管理対策機構 理事・事務局長	細坪 信二
		西口地域部会活動報告	
		工学院大学建築学部 教授	久田 嘉章
	13:40	2 議案	
		(1) 平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会	
総 会		座長の選任について	
		(2) 平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会	
		副座長の選任について	
		(3) 平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会	
		構成団体名簿(案)について	
		(4) 平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会	
		活動計画(案)について	
		鱒沢工学研究所 代表	鱒沢 曜
		新宿区危機管理担当部危機管理課長	
		鯨井 庸司	
	14:10	3 その他報告事項	
講 演	14:30	「新宿駅周辺のまちづくり」	
		新宿区危機管理担当部長	
		森 孝司	
質疑応答	15:00		
閉会挨拶	15:05	新宿駅周辺防災対策協議会 座長	
閉 会	15:15		

図 6 平成29年度新宿駅周辺防災対策協議会総会プログラム

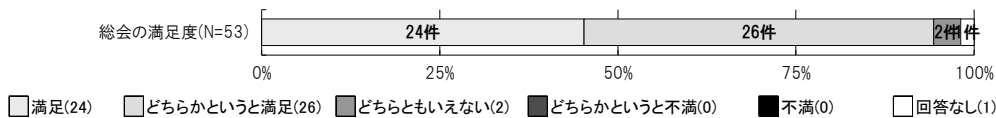


図 7 平成29年度新宿駅周辺防災対策協議会総会の実施状況
(左上：吉住区長の挨拶、右上：会場の様子、左下：宮崎氏の報告、右下：森氏の講演)

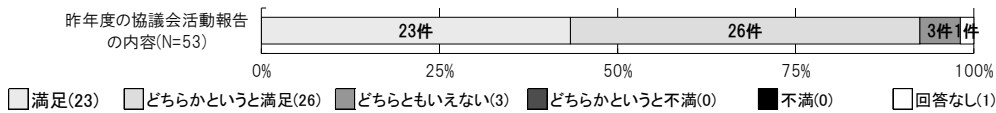
表 2 総会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
82 名	53 名	65%

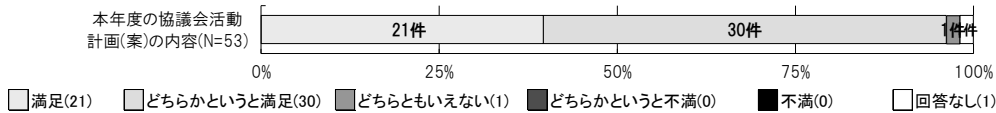
Q.1 本日の総会はいかがでしたか？



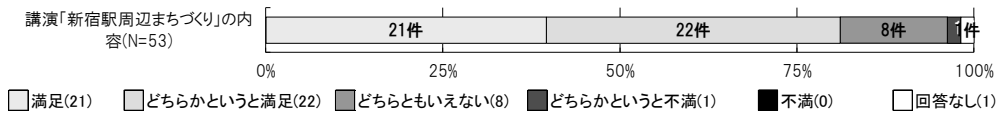
Q2. 昨年度の協議会活動報告の内容はいかがでしたか？



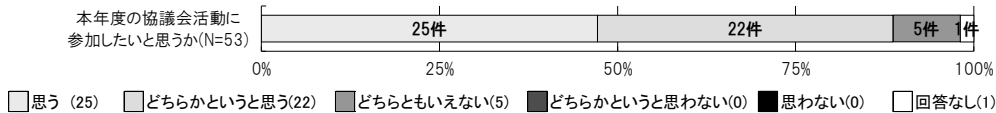
Q3. 本年度の協議会活動計画(案)の内容はいかがでしたか？



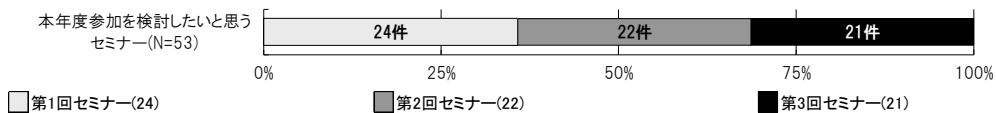
Q4. 講演「新宿駅周辺まちづくり」の内容はいかがでしたか？



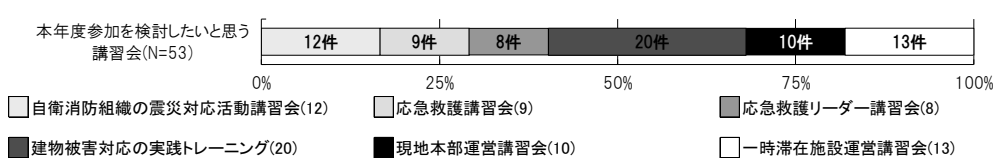
Q5. 本年度の協議会活動に参加したいと思いますか？



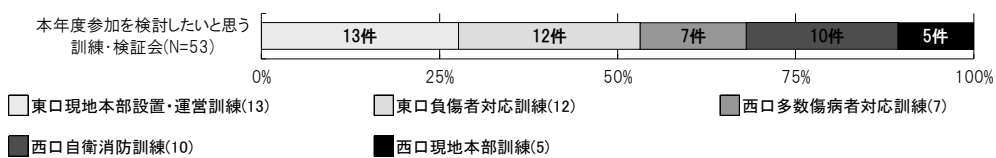
Q6-1. 本年度の協議会活動において参加を検討したいと思うセミナー(複数回答可)



Q6-2. 本年度の協議会活動において参加を検討したいと思う講習会(複数回答可)



Q6-3. 本年度の協議会活動において参加を検討したいと思う訓練・検証会(複数回答可)



Q6-4. 本年度の協議会活動において参加を検討したいと思うイベント(複数回答可)

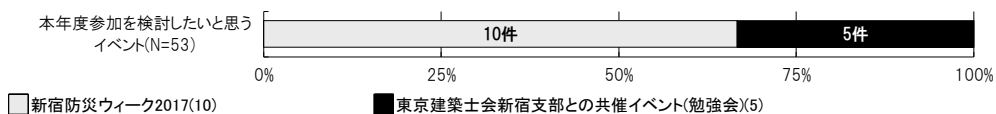


図 8 総会アンケート調査結果概要(1)

表 3 総会アンケート調査結果概要(2)

良かった点

- ・ 全体的にまとまった議事でよかった
- ・ 計画が日程まで記載されていたので、予定がつけられる
- ・ 各報告書が良く整理されていて理解ができました
- ・ 今後の新宿駅周辺のまちづくりのイメージがつかめた
- ・ 区長にもご出席頂き、区の姿勢（取組み）が強いことが分かった。新体制の承認を得たこと
- ・ 進行骨子、ボリューム、資料が鮮明
- ・ ここでしか得られない情報があること
- ・ ドローンの活用は大変良いと思う
- ・ 毎年同じことを実施するだけではなく、年々取組みをより効果的に計画している所
- ・ 資料がカラーで印刷されているのは良いと思います
- ・ 判りやすい
- ・ 都の補助事業について初めて知った。参考にしたい
- ・ 新宿地区の現状、未来図が少し分かりました。それを認識して業務に取組みたいと思います
- ・ 今後の新宿駅周辺のまちづくりの将来像について、非常に興味深く聴かせていただきました
- ・ 資料がカラーのコピーで内容の把握に役立つ。プレゼン形式の進行は非常に分かりやすい
- ・ 今年度、取り組んでいく内容がよくわかった
- ・ 具体的な昨年度報告及び、今年度の活動内容が判りやすかった
- ・ 資料が図式、カラー化され見やすく理解できた
- ・ 新宿駅周辺のまちづくり、新たなまちづくりの案内を知らせていただいた
- ・ ドローンを用いた情報収集に有効性を感じた
- ・ ドローン実証実験の報告
- ・ 講演での「新宿駅周辺のまちづくり」は興味深く聞かせていただいた
- ・ 資料が大変見やすく良かった

改善点

- ・ 部長の説明がマイクが少し離れていたのでは聞き取りにくかった。マイクを持って説明してもらうようにしたらよかったと思う
- ・ 防災ウィークの周知度がいま一つ低い。他教関とコラボしたイベントが実施出来ないか？シンポジウムでは区民、マスコミの興味が弱いのでは？
- ・ マイクの音量もう少し上げてください
- ・ 「駅周辺のまちづくり」若干聞き取りづらい、スケジュール感が不明（今後の可能性含）

本年度の協議会活動に期待する内容・意見

- ・ 外国人対応など
- ・ 地域を守る活動として積極的に参加したいと考えています。新宿区との協定はどう進めていけばよいかが相談したく思っています
- ・ 取りあえず、やって、検証し、次に生かしましょう
- ・ 帰宅困難者受け入れ訓練の推進
- ・ 訓練や行事が終わって終了としないようにしていきたい
- ・ 訓練において、会員各社の情報を実際にあつめるなど、具体的なものがあると良い
- ・ オリンピックにからめた活動を期待したい
- ・ できるものに対して取り組んで参りたいと思います
- ・ テロ対策、北朝鮮問題への対応なども検討したい
- ・ 例年通り、参加可能なものについては参加していきたいと思います
- ・ 実働実験では東口と西口が連携した取り組み内容を盛り込んだらどうか

3.3 セミナーの概要

3.3.1 実施概要

平成 29 年度のセミナーは、地域の事業所勤務者全般を対象に、①阪神・淡路大震災の経験談、②災害対応における組織運営、③民間企業における BCM の取組み、④防災・まちづくりの取り組み事例をテーマとして取り上げ、3 回にわたり実施した。平成 29 年度のセミナー実施概要を以下に示す。

(1) 目的

- ・ 中心市街地や高層建物などの特性を理解し、災害や防災への関心を高めて地域防災活動への参加を促進する

(2) 実施方針

- ・ 地域の事業者が、「一般的な知識」や「新宿駅周辺地域に関する関連知識」について、座学および演習により習得する
- ・ 「新宿ルール実践のための行動指針」における位置づけを明確にする
- ・ 協議会スケジュールを踏まえて実施テーマと時期を選定する

(3) 主な対象

- ・ 協議会員や防災担当者など特定の対象を設けず、関心のある人全般

(4) 実施テーマ

- ・ 第 1 回：多くの人の関心を集めるテーマ
→ 阪神・淡路大震災の経験談
- ・ 第 2 回：訓練を意識した実務的・実践的なテーマ
→ 災害対応における組織運営、民間企業における BCM の取組み
- ・ 第 3 回：総括的なテーマや他地域の取組み紹介を中心とするテーマ
→ 防災・まちづくりの取り組み事例

(5) 実施期間

- ・ 2017 年 7 月～2018 年 2 月

3.3.2 第1回セミナー

第1回セミナーでは、過去の大規模震災に学び、震災時に実践すべき行動について考える契機とすることを目的とし、講演を行った。以下に実施概要および実施状況（図9）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表4、表5および図10に示す。

- ・ 題目：大規模震災が発生したときわたしたちはどのように行動すべきか??
～阪神・淡路大震災に学ぶ事業継続の要諦とリーダーの役割および地域の復旧・復興～
- ・ 目的：過去の大規模震災に学ぶ／震災時に実践すべき行動について考える
- ・ 日時：2017年7月28日（金）15:00～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 3階 アーバンテックホール
- ・ 参加人数：112名
- ・ プログラム
講演「阪神・淡路大震災に学ぶ～大震災時におけるBCPの要諦およびその後の経済・社会復興への視点～」
独立行政法人日本学生支援機構 理事長／東京都教育委員会 委員
元 日本銀行 神戸支店長（阪神・淡路大震災 当時）
遠藤 勝裕 氏

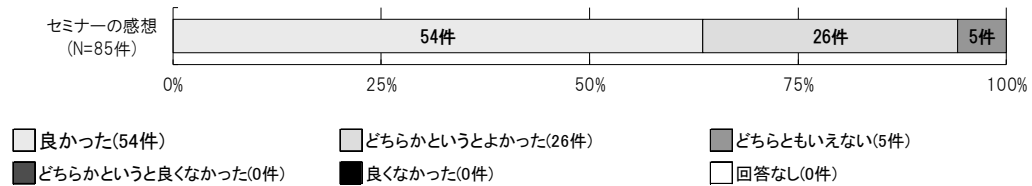


図9 第1回セミナーの実施状況

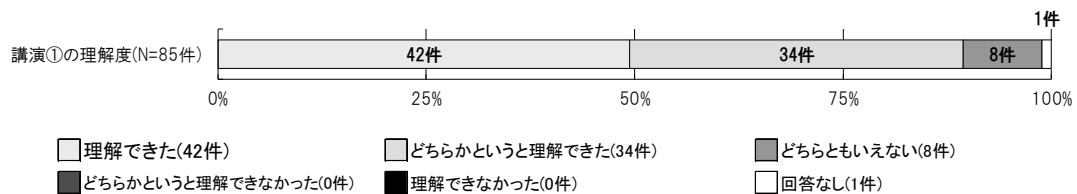
表 4 第1回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
112 名	85 名	76%

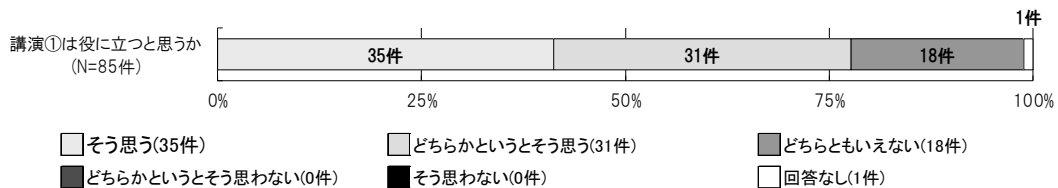
Q1. 本日のセミナーはいかがでしたか？



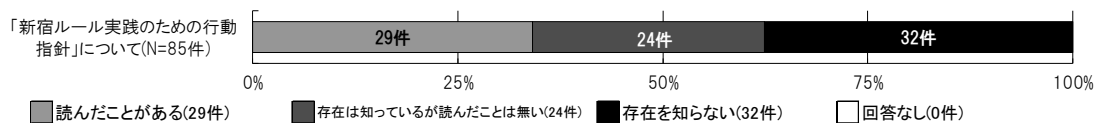
Q2. 講演「阪神・淡路大震災に学ぶ～大震災時における BCP の要諦およびその後の経済・社会復興への視点～」の内容について理解できましたか？



Q3. 講演「阪神・淡路大震災に学ぶ～大震災時における BCP の要諦およびその後の経済・社会復興への視点～」の内容は、参加者の皆さんの所属組織の危機対応力向上に役立つと思いますか？



Q4. 新宿駅周辺防災対策協議会では平成 28 年 6 月に「新宿ルール実践のための行動指針」を策定しています。あなたは、この行動指針を読んだことがありますか？



Q5. 本日のセミナーに参加して、地域防災活動への関心はたかまりましたか？

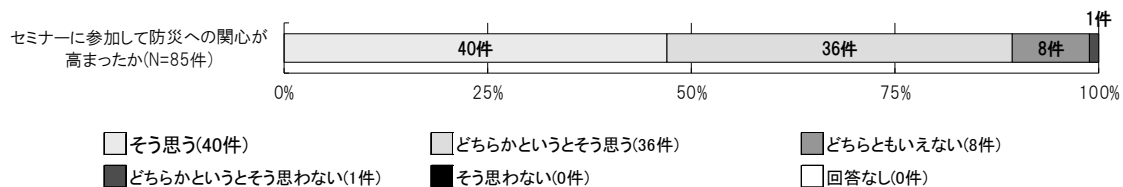


図 10 第1回セミナーアンケート調査結果概要(1)

表 5 第1回セミナーアンケート調査結果概要(2)

セミナーに参加しようと思われた理由

- ・ 色々な体験談を聞き、参考にしていきたい為
- ・ 情報収集
- ・ 協会メンバーである
- ・ 勤め先の防災担当なので、組織の中心として学ぶべきことを学ぼうと思ったから
- ・ 仕事
- ・ 新宿地区の防災についてより広く学びたいから
- ・ 協議会に参加しているから
- ・ BCP コンサルタントからのすすめ
- ・ 会社の BCP マニュアルの改善に役立つポイント、ヒントがあればと思ったため
- ・ 発災後における日銀神戸支店の対応について聞いたかった
- ・ 地域での減災対策検討に生かすため
- ・ 地震工学の授業で久田先生に参加をすすめられたため
- ・ 過去に自然災害対応経験が多く、風化しないためにも聞いておきたかったです
- ・ 知人からの紹介。以前 NHK で日本銀行の異例の業務対応について聞いたことがあり、ご本人からの講話であったから
- ・ 講師に興味があったから
- ・ 弊社消防担当者からの誘い
- ・ 震災が起きた時に役立つと思ったので参加しました
- ・ 実体験を聞けるとのことで申し込みしました
- ・ 被災時の実際の話がうかがえると思いました
- ・ 日頃より、防災担当として関心をもっていました
- ・ 当社 BCP の見直しを検討しており、参考とするため
- ・ 大震災（都市型災害）における防災対策の理解を深めるため
- ・ 駅周辺協議会事務局からの案内
- ・ 貴重なお話が聞けると思ったから
- ・ 自社での対応に参考になればと思い参加しました
- ・ BCP 策定のため
- ・ 自身、企業の勉強のため
- ・ 事務局からの連絡
- ・ 知識の向上
- ・ 防災意識の向上
- ・ 当社での BCP の参考にしたい
- ・ テーマから
- ・ ライフラインを守る業種であるから
- ・ 防火防災管理者として大規模震災について知りたかった
- ・ 超高層ビル管理会社に今春異動となり、防火防災関連の情報について学んでいるため
- ・ 要請により参加
- ・ 防災担当になったから
- ・ 大震災を経験した現場の責任者の話には価値があると思ったから
- ・ 知人の紹介
- ・ テレビ等のメディアと違い実際に直接お話を聞けるということで、参加しようと思いました
- ・ 防災の関心があったため
- ・ 東日本大震災を身近に体験し、地震等の災害が発生した時の対応策について学びたかったから（体験談を交えつつ）
- ・ 授業での紹介
- ・ 講義でセミナーがあると説明があったから
- ・ 授業における加点
- ・ 単位が危うそうでしたので、加点のために参加しました
- ・ 大地震を体験したことがなく、緊急時の行動として前例より学び、知っておきたかった
- ・ 地震が多い日本では、知っておくべきことだと考えたためです
- ・ 大規模災害に対する対応や対策について興味があったから
- ・ 「地震工学」の授業で先生にすすめられたから
- ・ 地震工学でセミナーがあると宣伝があったから
- ・ 大学の授業でセミナーの開催を知ったため
- ・ 都市計画について大学院でまなんでいるため、その一貫として防災について興味があったため

3.3.3 第2回セミナー

第2回セミナーでは、災害対応および事業継続の取り組み事例を学ぶことを目的とし、関連する2題の講演を行った。以下に実施概要および実施状況（図11）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表6、表7および図12に示す。

- ・ 題目：想定される災害にいかに向き合うか？

～災害対応及び事業継続の取り組みの最前線～

- ・ 目的：災害対応および事業継続の取り組み事例を学ぶ
- ・ 日時：2017年9月29日（金）14:00～17:30
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟28階 第1・第2会議室
- ・ 参加人数：80名
- ・ プログラム

講演①「災害等に打ち勝つ組織の運営には何が必要なのか？—災害対応の実際と考え方—」

防衛医科大学校 防衛教官 准教授 秋富 慎司 氏

講演②「ゼロから始めたBCP推進体制の構築と燃料調達BCPの取り組み～サプライチェーンを止めるな～」

株式会社明電舎 総務部 参与 沖山 雅彦 氏

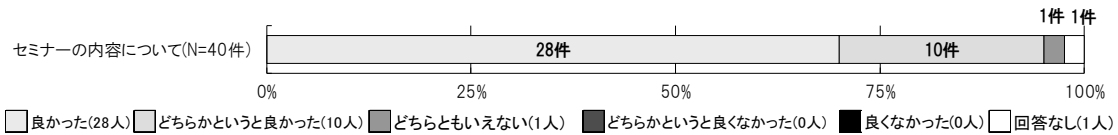


図 11 第2回セミナーの実施状況

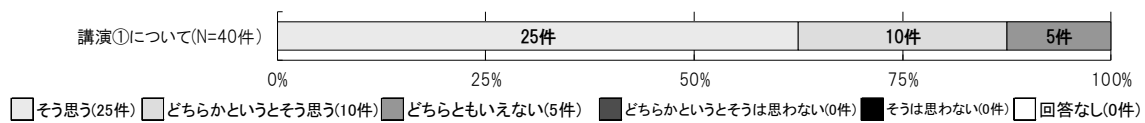
表 6 第2回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
80 名	40 名	50%

Q1. 本日のセミナーはいかがでしたか？



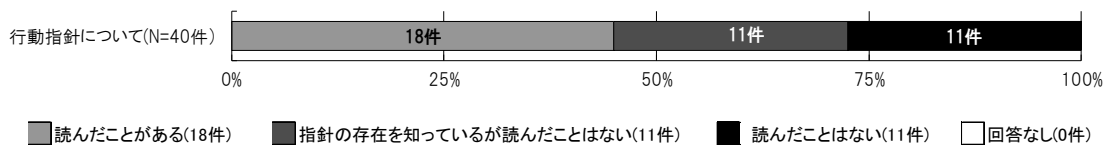
Q2. 講演①「災害等に打ち勝つ組織の運営には何が必要なのか？一災害対応の実際と考え方」の内容は、参加者の皆さんの所属組織の危機対応力向上に役立つと思いますか？



Q3. 講演②「ゼロからはじめた BCP 推進体制の構築と燃料調達 BCP の取り組み～サプライチェーンをとめるな～」の内容は、参加者の皆さんの所属組織危機対応力向上に役立つと思いますか？



Q4. 新宿駅周辺防災対策協議会では、平成 28 年 6 月に「新宿ルール実践のための行動指針」を策定しています。あなたは、この行動指針を読んだことがありますか？



Q5. 本日のセミナーに参加して、地域防災活動への関心はたかまりましたか？

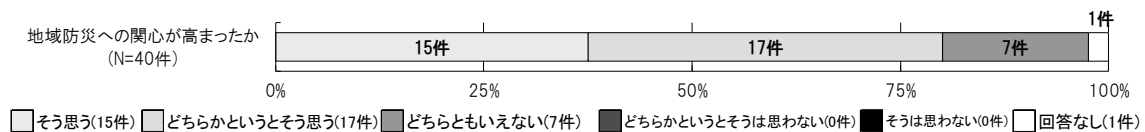


図 12 第2回セミナーアンケート調査結果概要(1)

表 7 第2回セミナーアンケート調査結果概要(2)

セミナーに参加しようと思われた理由

- ・ 第一回が良かったため
- ・ 商店街、当初の従業員への防災教育を実施したい
- ・ 最近の情報が欲しかった
- ・ 東口部会の構成員のため
- ・ 自社の大震災対応計画において欠落している支店や考慮・追加すべき事項・考え方の確認のため
- ・ 災害への心構えを勉強したいと思い参加しています。毎回参加したいと思っています
- ・ 本社が中心になって行っているか、各個所により温度差もある。当ビルでも 800 名弱の社員がいるが、ビル主体で各個人について温度差がかなりある
- ・ B C P の情報を得たかったため
- ・ 協議会に参画しているので
- ・ 新たな情報の収集
- ・ 災害の知識を広めたいと思いました
- ・ 外部からの情報により、知識を深め少しでも実務に活かしたいため
- ・ 事務局からのメール案内
- ・ 災害に対応した建具の開発に活かしたい
- ・ テーマが興味深かったため
- ・ 自分の職務に関係する
- ・ 先行している新宿駅周辺防災対策の情報入手
- ・ 管理している建物等に少しでも役立てられればと思っています
- ・ 想定される災害に対して「すべきこと」は何か、またどのように行動を起こすかを習得するため
- ・ 今年度から担当部門に異動になったため、関連知識を得る目的で参加
- ・ B C P 体制の構築の参考として参加しました
- ・ 秋富先生の話聞いてみたいと思ったから
- ・ ビル管理会社からの案内
- ・ 会社からの情報

3.3.4 第3回セミナー

第3回セミナーでは、他地域における防災・まちづくりへの取組み事例を参考に、今後の新宿駅周辺地域における取組みのあり方を考えることを目的とし、関連する2題の講演を行った。以下に実施概要および実施状況（図13）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表8、表9および図14に示す。

- ・ 題目：地域防災を新宿駅周辺地域のさらなる活性化につなげよう!!
- ・ 目的：他地域における防災・まちづくりへの取組み事例を参考に、今後の新宿駅周辺地域における取組みのあり方を考える
- ・ 日時：2018年2月20日（火）14:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟28階 第1・第2会議室
- ・ 参加人数：46名
- ・ プログラム
講演①「大阪ビジネスパーク(OBP)における取組み」
一般社団法人 大阪ビジネスパーク協議会 事務局長 舟越 照代 氏
講演②「森ビルの考える安全・安心」
森ビル株式会社 構造設計部 土橋 徹 氏

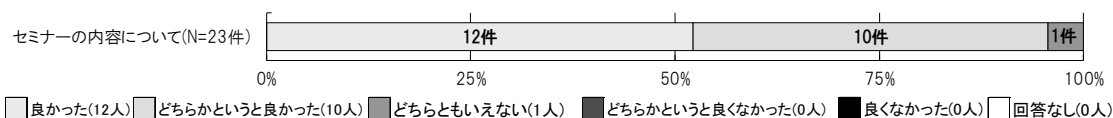


図 13 第3回セミナーの実施状況

表 8 第3回セミナーアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
46 名	23 名	50%

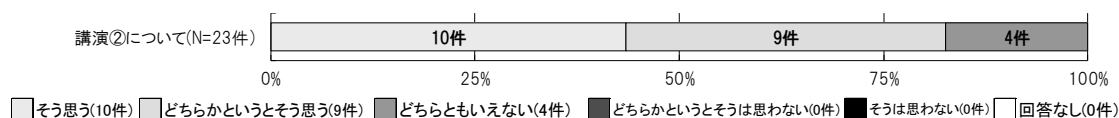
Q1. 本日のセミナーはいかがでしたか？



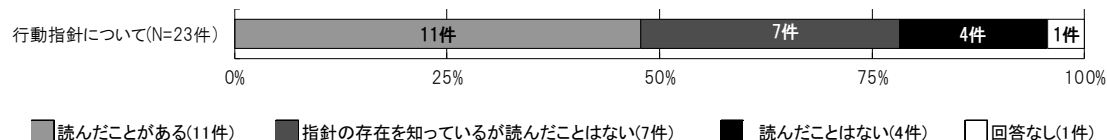
Q2. 講演①「大阪ビジネスパーク(OBP)における取組み」の内容は、今後の本協議会活動や参加者のみなさんの所属組織の危機対応力向上に役立つと思いますか？



Q3. 講演②「森ビルの考える安全・安心」の内容は、今後の本協議会活動や参加者のみなさんの所属組織の危機対応力向上に役立つと思いますか？



Q4. 新宿駅周辺防災対策協議会では、平成 28 年 6 月に「新宿ルール実践のための行動指針」を策定しています。あなたは、この行動指針を読んだことがありますか？



Q5. 本日のセミナーに参加して、地域防災活動への関心は高まりましたか？

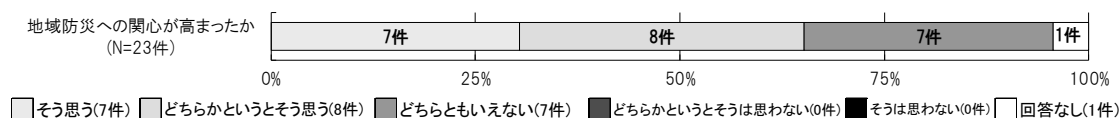


図 14 第3回セミナーアンケート調査結果概要(1)

表 9 第3回セミナーアンケート調査結果概要(2)

セミナーに参加しようと思われた理由

- ・ 会社・地域のリーダーとして参加
- ・ 弊会事務局長が講演
- ・ 大阪等民間の進んだ地震対策に関する情報収集
- ・ 今後の防災対策への参考のため
- ・ 協議会に参画しているから
- ・ O B Pや森ビル的事例を聞きたいと思った
- ・ 研究活動の一環
- ・ 他エリアの活動に関心があるため
- ・ 通勤先があり、不安感があるため
- ・ 森ビルの話を知りたかった
- ・ 色々な防災に関する考え方を知りたかったため
- ・ 毎回のことですが、弊社消防担当からの誘いと、区の活動にご協力できればと。しかしながらテナントに参加を促すのですが、なかなか参加者が集まらず。消防訓練は参加してくれるのですが・・・

3.4 講習会の概要

3.4.1 実施概要

平成 29 年度の講習会は、新宿駅周辺地域の訓練に参加する事業所勤務者を主な対象とし、訓練内容に対応する 4 つのテーマ（自衛消防活動、建物被害対応、応急救護、現地本部運営）および一時滞在施設運営をテーマとして取り上げ、計 6 回開催した。平成 29 年度の講習会実施概要を以下に示す。

(1) 目的

- ・ 自助と共助を主とした災害対応活動を実践するために必要な知識や技術を身につける

(2) 実施方針

- ・ 総合防災訓練の効果を高める
- ・ 訓練内容や地域特性に応じて必要なテーマを選定して実施する
→ 協議会訓練の事前研修として位置付ける（一部講習会を除く）

(3) 主な対象

- ・ 協議会会員事業所・団体等（特に訓練参加希望者）

(4) 実施テーマ

- ・ 自衛消防活動
- ・ 傷病者対応
- ・ 建物被害対応
- ・ 現地本部運営
- ・ 一時滞在施設運営

(5) 実施期間

- ・ 2017 年 7 月～2018 年 2 月（一部講習会を除き、協議会訓練前に実施）

(6) 昨年度からの主な改善点

- ・ 訓練参加者の講習会参加率向上
→ 訓練における役割に対応する講習会を明確にし、開催日程を事前に通知
- ・ 経験差（継続参加と初参加）に対応した講習メニューの検討
→ 応急救護講習会（初心者向け・半日）、応急救護リーダー講習会（経験者向け・終日）
- ・ 講習会実施順序の見直し（自衛消防活動全般→個別テーマ（傷病者・建物）、自助→共助）

(7) その他

- ・ 受講証の配布（一部講習会を除く）
- ・ 講習会参加者に対する対象訓練（役割）参加の優先受付
- ・ 協議会ホームページによる情報発信

3.4.2 自衛消防組織の震災対応活動講習会

自衛消防組織の震災対応活動講習会は、大規模施設の地震災害時における自衛消防活動の一連の流れ、本部隊・地区隊の役割および具体的な活動要領を学ぶことを目的とし、西口地域で実施する自衛消防訓練の事前研修に位置付け実施した。以下に実施概要および実施状況（図 15）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表 10、表 11 および図 16 に示す。

- ・ 題目：自衛消防組織の震災対応活動講習会
- ・ 目的：大規模施設の地震災害時における自衛消防活動の一連の流れ、本部隊・地区隊の役割および具体的な活動要領を学ぶ
- ・ 日時：2017 年 7 月 14 日（金）13:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟 2 8 階 第 1 会議室、第 4 会議室
- ・ 講師：東京消防庁新宿消防署 自衛消防担当係長 消防司令 糸魚川 辰男 氏
株式会社セノン 教育部 課長 富樫 肇 氏
株式会社セノン 教育部 係長 鈴木 良幸 氏
鱒沢工学研究所 代表 鱒沢 曜 氏
- ・ 参加人数：29 名
- ・ プログラム
 - 1) 座学講習
講義「震災時における自衛消防活動」
 - 2) 実技講習
 - ① 119 番通報連絡体験
 - ② 屋内消火栓取扱い説明
 - ③ 消火器取扱い・避難誘導體験
 - ④ 挟まれた人の救出体験
 - 3) 図上演習
初動対応体験（本部隊と地区隊の情報共有）

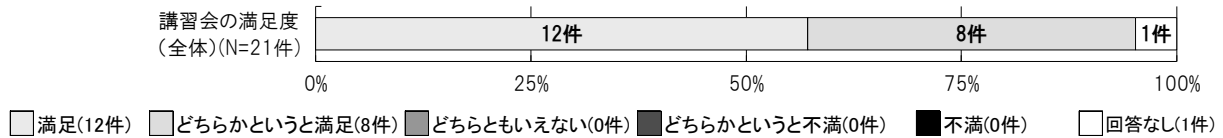


図 15 自衛消防組織の震災対応活動講習会の実施状況

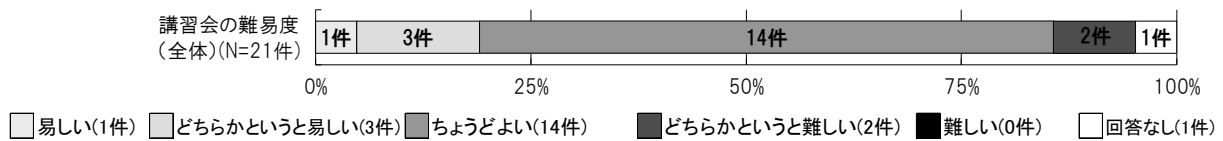
表 10 自衛消防組織の震災対応活動講習会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
29 名	21 名	72%

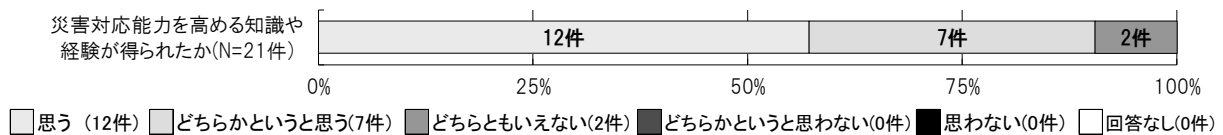
Q1. 内容はいかがでしたか？



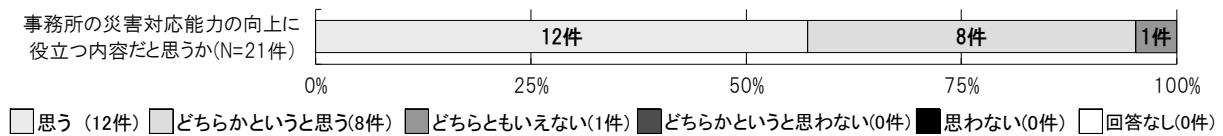
Q2. 難易度はいかがでしたか？



Q3. ご自身の災害対応能力を高める知識や経験が得られたと思いますか？



Q4. 事業所(お勤め先)の災害対応力の向上に役立つ内容だと思いますか？



Q5. 地域防災力の向上に役立つ内容だと思いますか？

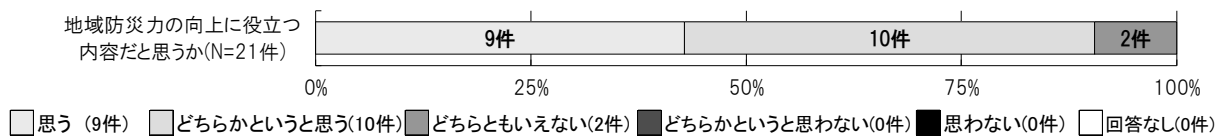


図 16 自衛消防組織の震災対応活動講習会アンケート調査結果概要(1)

表 11 自衛消防組織の震災対応活動講習会アンケート調査結果概要(2)

具体的に役立つと思う講習内容

- ・ 図上演習
- ・ 本部隊隊長として動いたが、指示伝達の内容やタイミングの判断が難しく、またかなりの緊張感であった。反省点ばかりではあるが、得がたい経験をさせていただき、大変満足しています。この反省を持ち帰って、今後に活かしたいと思います
- ・ 時間がもっとあればより効果があると思う
- ・ 熱心に説明する指導方法は役立つと思いました
- ・ 消火説明の操作、誘導等
- ・ このような演習に参加したことがなかったため、消火器、救護活動は非常に良い経験となりました
- ・ 実技講習
- ・ ①大きな声、②バールの利用、③図上演習での助け合い
- ・ フローチャート
- ・ 震災発生時の対応「避難誘導」「初期消火」「119 番通報」の教育及び人災発生時の救出訓練も救出要領を分かりやすく教えていただけた
- ・ 実技訓練（消火器、挟まれた方の救出、避難誘導）
- ・ 消火器の取り扱い
- ・ 実際に火事が起きた時にパニックになってしまうと思うので、そのときの対応についてなど学べてとてもよかった
- ・ 講習(全体)含め、実技内容が役立つと思いました
- ・ 実技講習は大変参考になりました
- ・ 実技演習で普段さわれない消火器や消火栓にさわられて、いざという時の自信が少しついた
- ・ 全て。役に立たないと思うことはありません

良かった点

- ・ 様々な種類の訓練を体験できたところ
- ・ 図上演習
- ・ 講師の方が熱心にご指導して頂きました
- ・ 座学講習について、具体的な事例がありわかりやすかった
- ・ 実際に発災した際には慌ててしまうだろうということが、図上演習を通して理解できた。いかに冷静に思っている（今日の図上演習でさえ）なかなかスムーズに動くことが殆ど出来なかった。非常に「難しい」ではなく「大変だ」ということを理解できた（常に判断をしていくプレッシャーのようなものを感じた）
- ・ 実技講習は役立つと思いました。セノンの方の講習がわかりやすく楽しかった
- ・ 実技指導をいただいたこと。図上演習（情報の処理訓練）
- ・ 情報内容に迅速な判断をしていたので情報の把握が良くできていた
- ・ 消防の方から直接話が聞けた点。情報の種類が多くて良かった
- ・ 消防の方の話が聞けた。実技訓練ができた。声を出すことの大切さを認識した
- ・ 図上演習。初めて経験したが、とてもいい内容だった
- ・ 消火器、消火栓などの具体的な使用法を学べた
- ・ 実際に災害が発生した場合は、多くの情報が入り混じって、多くの人手が必要になることが分かりました
- ・ プログラムの順番が良い
- ・ 実際に動くことは体験として有益だと思います
- ・ 3 タイプの訓練を 1 時間ずつ行うことで、飽きずに学べた

改善点

- ・ 図上訓練のやり方が最初分かりづらかったです
- ・ 全体放送がきこえなかった（図上演習）
- ・ どうしても自分の役割だけ集中してしまいがちであったため、少し周りを見る余裕を見てほしいと感じた
- ・ 図上演習ははじめ何をやらいいかわからないのに、説明もなく残念だった。もう少し詳しく事前説明した方が良い。本部隊（パソコン）の報告が分からない（聞き取れない）。改善が必要だと思う
- ・ 館内放送がわかりやすく

- ・ 役割について少し説明があるとスムーズに進められたと思います。進行役がいてもらえると助かります
- ・ 放送内容の確認が聞き取りづらかった。情報内容（本部隊）に一部？な内容があった。避難誘導班であったが避難が必要な案件がなかった
- ・ 状況一覧の用紙について、パット見で見やすいが、局面の変化に対応するのが難しい。館内アナウンスについて、新たな試み面白い。音質が上がればなおよい
- ・ 図上訓練について何をする訓練かわからなかった。何をする訓練かの説明がほしい。図上訓練において情報は自ら作っていいのか、もらわなければいけないのか？積極的に探しに行くのか？よく分からなかった
- ・ 座学講習の時はクーラーを強くしてほしい
- ・ 図上演習の時間が短くて未消化だった。図上演習だけでも半日とって、じっくりやってみたい
- ・ 座学講習の際に室内の明るさをもう少し暗くするとプロジェクターが見やすくなり、よくなると思います。午後一番からの講習ということで講習参加者の居眠り等あるとおもいますが
- ・ 図上演習上のコントローラの人の想定に対する回答が？本地区隊が事前に定めている消防計画（帰宅困難者対策、備蓄品など）が、設定されている条件でやった方がよい

3.4.3 応急救護講習会

応急救護講習会は、災害時の応急救護に必要な基礎知識と代表的な技術を身に着けることを目的とし、西口地域で実施する多数傷病者対応訓練、自衛消防訓練および東口地域で実施する負傷者対応訓練の事前研修に位置付け実施した。以下に実施概要および実施状況（図 17）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表 12、表 13 および図 18 に示す。

- ・ 題目：応急救護講習会
- ・ 目的：災害時の応急救護に必要な基礎知識と代表的な技術の習得
- ・ 日時：2017 年 8 月 4 日（金）13:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 中層棟 5 階 B0523 教室、B0526 教室
- ・ 講師：東京消防庁新宿消防署 救急技術担当係長 安田 不二夫 氏
日本赤十字社東京都支部 事業部長 高桑 大介 氏
日本赤十字社東京都支部 事業部救護課 講習係長 野口 陽平 氏
- ・ 参加人数：28 名
- ・ プログラム
 - 1) 座学講習
災害医療概論、トリアージ
 - 2) 実技講習
観察、体位、保温、止血、包帯、固定、搬送
 - 3) 総合演習
応急救護の実践、振り返り

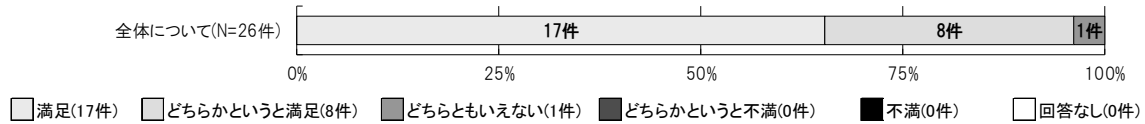


図 17 応急救護講習会の実施状況

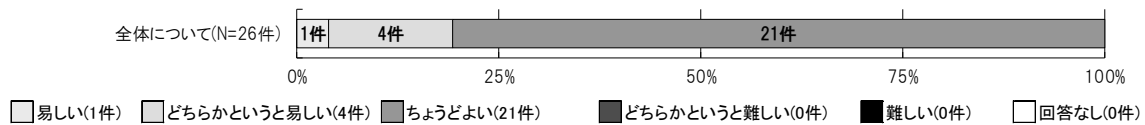
表 12 応急救護講習会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
28 名	26 名	93%

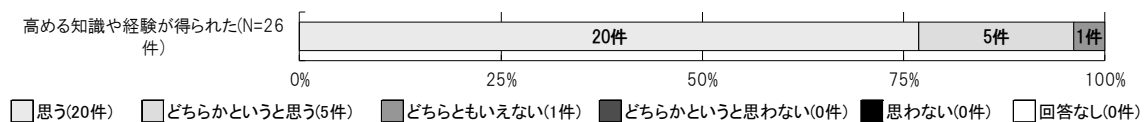
Q1. 内容はいかがでしたか？



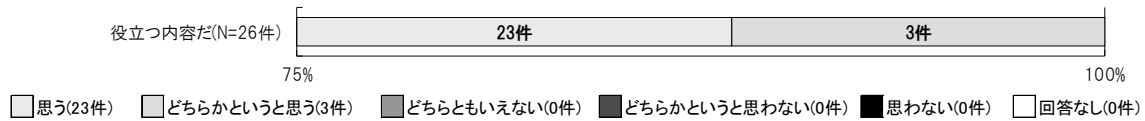
Q2. 難易度はいかがでしたか？



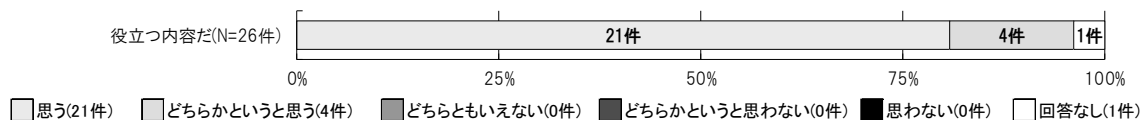
Q3. ご自身の災害対応能力を高める知識や経験を得られたと思いますか？



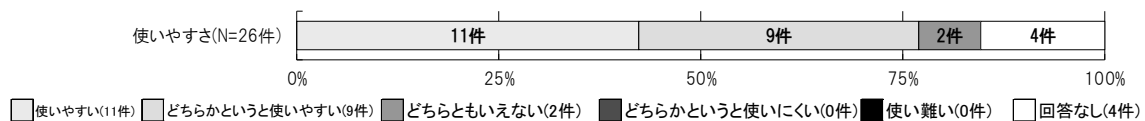
Q4. 事業所(お勤め先)の災害対応力の向上に役立つ内容だと思いますか？



Q5. 地域防災力の向上に役立つ内容だと思いますか？



Q.7 傷病者観察記録シート・情報連絡シートの使いやすさはいかがでしたか？



Q.8 傷病者観察記録シート・情報連絡シートを事業所等で使ってみたいと思いますか？



図 18 応急救護講習会アンケート調査結果概要(1)

表 13 応急救護講習会アンケート調査結果概要(2)

具体的に役立つと思う講習内容

- ・ 三角巾を使った応急手当 3 種類は役に立ちます
- ・ (三角巾、ガーゼの使い方等、)日常生活においても万が一のケガの際、非常に役立つ内容と思いました。社内でも E-ラーニング等で採り入れることが出来れば良いと思います
- ・ 三角巾の活用、トリアージの意味、パディの活用
- ・ 担架の搬送の重要性が分かった
- ・ 三角巾の使い方
- ・ 総合演習、身体の返し方
- ・ 実技講習は実践的でよかった
- ・ 実技・総合演習
- ・ 実技
- ・ トリアージ、三角巾の使い方
- ・ 実技が役に立った。職場でも共有したい
- ・ 役に立ち大満足
- ・ 実技講習全体
- ・ 高層ビルに勤めているので、階段での担架の使い方がとても参考になりました。次は重りを乗せた状態で行いたい
- ・ 実技(特に止血、包帯)
- ・ 実技講習(容体確認の仕方、安全な体位、三角巾の巻き方等)総合演習(災害時対応順序)
- ・ 担架(ほかの講習で経験したことがなかったから)
- ・ 実技で手当の仕方を学んで傷病者と接した際の助け方を知ることができた。しかし、総合演習で行った傷病者を助ける前の行動が傷病者にとって最も大切なのではないかと感じた
- ・ 総合演習にもっと時間をとるべきだと感じた
- ・ 担架。手当

良かった点

- ・ 手当てをする側になったのは初めての事でとても役に立った
- ・ 初めての参加ですが、わかりやすい内容でした
- ・ 実技と総合演習は身体を使うのでよかった
- ・ 実技、演習があった点
- ・ 多様な応急救護について学べたところ
- ・ 災害医療の実態が分かった。応急救護実技が参考になった
- ・ 実技講習が具体的に理解しやすかった
- ・ わかりやすかった
- ・ 短い時間内に密に実技講習が受けられた事(傷病者の観察基礎知識、応急手当など)。総合演習で実際に応急救護ができたのがよかった
- ・ 実際に役立つ実技を体験できたこと。テキストを開かずに行なったこと
- ・ 実技講習は普段の生活の中でも活かせる大変有意義な経験だと思います
- ・ わかりやすかった
- ・ 階段の搬送は普段できない訓練なので参考になった
- ・ 総合演習がロールプレイング形式でわかりやすかった
- ・ 実際に行う体験は必要なので、良いです

改善点

- ・ もっと繰り返しのトレーニングを行いたかった
- ・ 担架の階段を上る時の検証も必要だと思う。地下 3, 4 階からの避難などもあるので
- ・ ソフトシーネではなく、身の周りの物で行ってみたいと思った。膨張シールの使い方が分からず貼っても取れてしまった
- ・ 少し狭かった。年 2 回やってもよいのでは。講義の話は半分で良かったのでは
- ・ 総合演習の初動対応をどうするのがわかったが、時間がもう少しほしかった。担架の搬送(階段部)は、もう少し場所や搬送範囲を準備する
- ・ 総合演習で容体が急変した際の処置が難しい
- ・ 総合演習はちょっとついていけないでした。時間がもう少しあればと思いました
- ・ 座学が長く感じた。もう少し実技の時間が多くてもいいと思います
- ・ 座学の内容がもう少し学術的なものでもいいと感じた

- 実技講習の講習会場が狭く、十分な実技の講習が行えなかった。時間管理ができておらず、最後の総合演習が駆け足になっていた
- 人数がやや多かったようでした。今回の3分の1位に制限をしていただければ、更に充実した内容が期待できると思います

3.4.4 応急救護リーダー講習会

応急救護リーダー講習会は、地震災害等で応急救護を行う際に知っておくべき知識と技術を身に着けるとともに、応急救護場所等での対応を効果的に行うための基本事項等について学ぶことを目的とし、西口地域で実施する多数傷病者対応訓練、自衛消防訓練および東口地域で実施する負傷者対応訓練の事前研修に位置付け実施した。以下に実施概要および実施状況（図 19）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表 14、表 15 および図 20 に示す。

- ・ 題目：応急救護リーダー講習会
- ・ 目的：災害時の応急救護に必要な知識と技術を身に着ける／応急救護場所等での対応を効果的に行うための基本事項を学ぶ
- ・ 日時：2017 年 8 月 17 日（木）9:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟 5 階 A0511 教室、A0514 教室
- ・ 講師：東京消防庁新宿消防署 救急技術担当係長 安田 不二夫 氏
日本赤十字社東京都支部 事業部長 高桑 大介 氏
日本赤十字社東京都支部 事業部救護課 主事 徳永 悠史 氏
- ・ 協力：新宿区医師会 防災担当理事 助川 卓行 氏
- ・ 参加人数：11 名
- ・ プログラム
 - 1) 座学講習
災害医療概論、トリアージ、情報管理
 - 2) 実技講習
観察、体位、保温、止血、包帯、固定、搬送
 - 3) 総合演習
応急救護の実践、情報管理、医師への引き継ぎ、振り返り

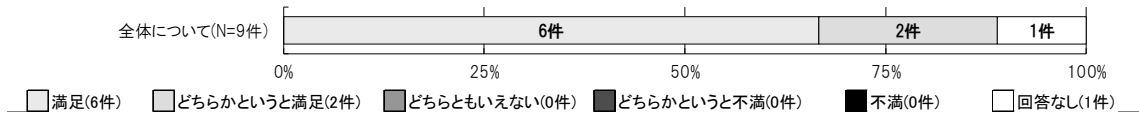


図 19 応急救護リーダー講習会の実施状況

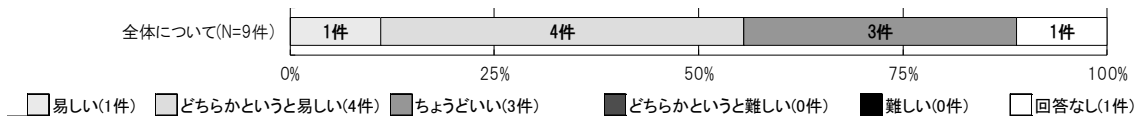
表 14 応急救護リーダー講習会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
11 名	9	82%

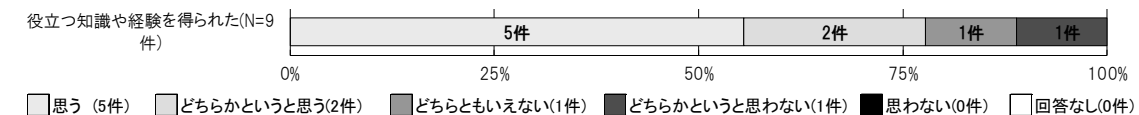
Q1. 内容はいかがでしたか？



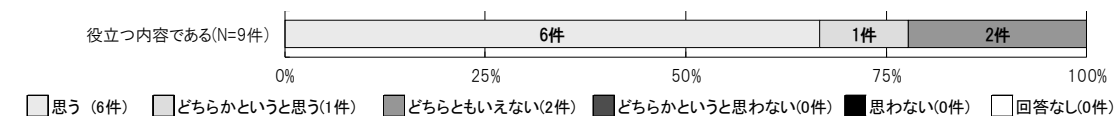
Q2. 難易度はいかがでしたか？



Q3. ご自身の災害対応能力を高める知識や経験を得られたと思いますか？



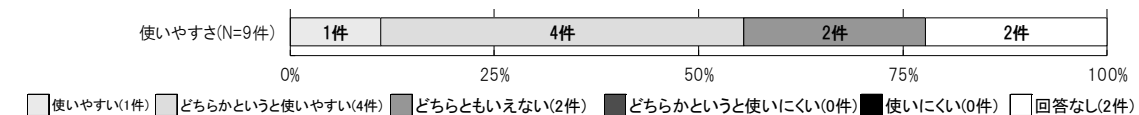
Q4. 事業所(お勤め先)の災害対応力の向上に役立つ内容だと思いますか？



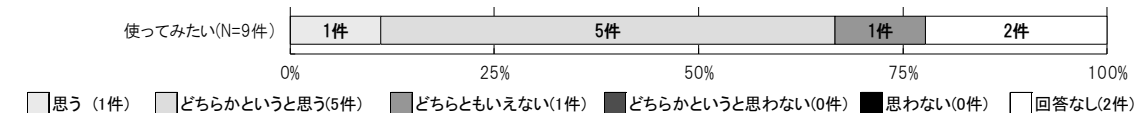
Q5. 地域防災力の向上に役立つ内容だと思いますか？



Q.7 傷病者観察記録シート・情報連絡シートの使いやすさはいかがでしたか？



Q.8 傷病者観察記録シート・情報連絡シートを事業所等で使ってみたいと思いますか？



Q.9 情報管理に用いた「傷病者情報一覧」の使いやすさはいかがでしたか？

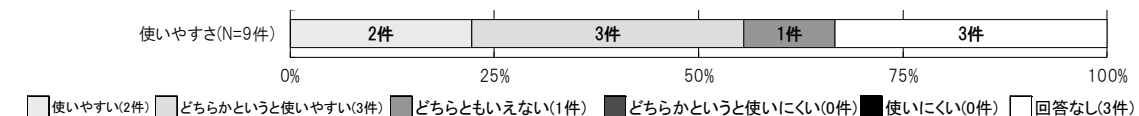


図 20 応急救護リーダー講習会アンケート調査結果概要(1)

表 15 応急救護リーダー講習会アンケート調査結果概要(2)

具体的に役立つと思う講習内容

(座学講習)

- ・ 2つの実習
- ・ 応急救護の必要性
- ・ すべて
- ・ 傷病者観察記録シートのQRコードが良い。実際のトリアージカードでも採用されては
- ・ 全て
- ・ 知識や状況を理解すること
- ・ 応急救護の重要性、情報管理（発、受の実習）

(実技講習)

- ・ 担架搬送とエアストレッチャーデモ
- ・ 三角巾を使用した応急手当
- ・ すべて
- ・ 三角巾の使い方が分かった
- ・ 担架の階段搬送。三角巾は復習できた
- ・ 三角巾
- ・ 三角巾の使用方法、タンカ
- ・ 観察の手順、三角巾の使用方法、搬送のポイント

(総合演習)

- ・ 密度高い内容
- ・ 傷病者情報連絡シート作成
- ・ すべて
- ・ コツコツと進んでいくことが大事だと思います
- ・ 全て
- ・ まず何をすべきかの判断が必要
- ・ 学んだ事を実践することで、更に、理解が深まりました。冷静さ、難しいですね

良かった点

- ・ 実技が多く体験型講習だった。少数参加で密度が高かった
- ・ 実技の時間が多く設定されていたため、イメージがつかみやすかったこと。現場に携わる講師の方々の話が伺えたことが良かったです
- ・ 幅広いテーマについて学習できた点が良かったです
- ・ 実技講習で三角巾の使い方が学べたこと
- ・ 体力的な負担が適度であった点・座学と実技のタイミング・順番が良かった
- ・ とにかく実体験すること
- ・ エアストレッチャー見学、実習、展示品参考になりました

改善点

- ・ 実質昼食 20 分は厳しい。観察記録シートは、トリアージタグのように穴を開けてゴムひも等をつけたほうが、本人が身につけられる。プログラムとテキストの時間が異なる（スケジュール）総合演習
- ・ 開始を早めるか終了を遅らせてよいので昼の時間はもう少し長めにあるといいなと思いました。エアストレッチャーの実演が見られない方がいたのはもったいないなと思いました
- ・ 特になし
- ・ 時事課題(ガスピング)等についても少し深く知っていた⇒最後に御説明頂けました。有り難うございます
- ・ 実技の流れ。個々の役割がもう少し先に分かるとのみこみ易いと思います
- ・ 情報管理についてもう少し時間をかけて実習しても良いと思った

3.4.5 建物被害対応の実践トレーニング

建物被害対応の実践トレーニングは、建物被害の特長や被害の見かたを学び、「建物チェックシート」等を用いた被害調査を仕方を理解することを目的とし、西口地域で実施する自衛消防訓練の事前研修に位置付け実施した。以下に実施概要および実施状況（図 21）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表 16、表 17 および図 22 に示す。

- ・ 題目：建物被害対応の実践トレーニング
- ・ 目的：建物被害の特長や被害の見かたを学び、「建物チェックシート」等を用いた建物調査の仕方を理解する
- ・ 日時：2017 年 9 月 22 日（金）13:30～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 3 階 アーバンテックホール
- ・ 講師：(株)大林組 技術研究所 構造技術研究部 主任研究員 諏訪 仁 氏
(株)武設計 代表（東京建築士会新宿支部） 武居 由紀子 氏
常葉大学 社会環境学部 教授 田中 聡 氏
(株)イー・アール・エス エンジニアリング部 チーフエンジニア 中嶋 洋介 氏
鱒沢工学研究所 代表（東京建築士会新宿支部） 鱒沢 曜 氏
工学院大学 客員研究員 宮村 正光 氏
- ・ 参加人数：26 名
- ・ プログラム
 - 1) 解説
建物被害調査のための基礎知識
 - 2) 演習
チェックシートを使用した調査・スマートフォンによる情報伝達
iPhone アプリを使用した調査
 - 3) 振り返り



図 21 建物被害対応の実践トレーニングの実施状況

表 16 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
26 名	20 名	77%

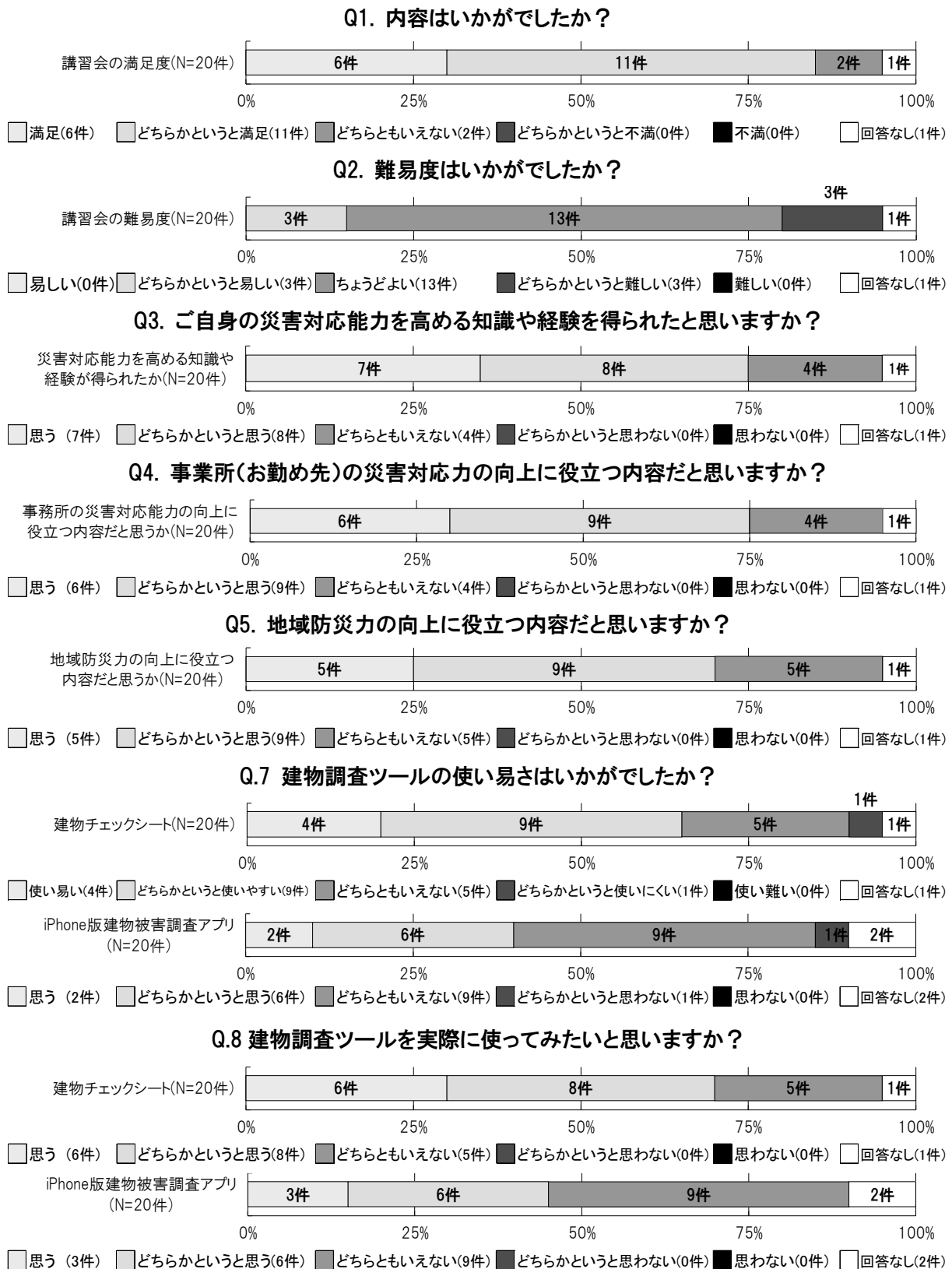


図 22 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査結果概要(1)

表 17 建物被害対応の実践トレーニングアンケート調査結果概要(2)

具体的に役立つと思う講習内容

- ・ 最新の被害調査手法が学ぶことが出来た
- ・ アプリの使用方法
- ・ 建物被害調査のための基礎知識。演習を行ったことで、難しさを実感できた
- ・ 図面に写真を埋め込めるため記録として残る（他にも使い道が出来る）
- ・ 実際の建物の photo が見られてわかりやすかった。建物の年代ですぐ避難した方がいいか考えられる
- ・ 建物被害調査の基礎知識の解説、事例の写真、演習
- ・ 建物被害の調査について
- ・ 自ら確認する行動の啓発となった
- ・ 建物被害調査のための基礎知識
- ・ 演習：天井の落下は、人に言われるまで気付かなかった。本当の災害時に危ないと教訓になった
- ・ 構造体と非構造体、被害の種類
- ・ 熊本地震・東日本大震災時の被害状況説明。どこに留意すべきかを知ることができた
- ・ 初動の目視調査を迅速に実施、情報整理する方法について学んだこと
- ・ 建物チェックシート、iPhone アプリ
- ・ 実際にやってみるという経験

良かった点

- ・ 建物に興味があるだけで、基礎知識も全くないので勉強になりました
- ・ 最新のやり方を学べた。携帯端末の効果的な活用方法の一つになると思いました
- ・ 演習で体験できた点
- ・ 具体的な行動、判断の起点となる。一方、技術（操作要領等）の記憶、維持に不安が残る。（特に機器操作に不慣れな人間）
- ・ 建物被害に対する認識を深めることができました。専門家でなくても、目の届かない所の異変を察知できれば、しかるべき所への報告が可能になり、早めの対応ができると思います
- ・ 被災情報を紙に記入するパターンとスマホで記入するパターン、両方を体験できたこと
- ・ 様々な防災のセミナー等に参加しているが、「建物」に特化したものはなかなかないので役に立った
- ・ 大変参考になりました
- ・ 初動調査の実践的手法を学んだこと。（演習できたこと）
- ・ iPhone を使った建物調査方法をはじめて知りました。災害時以外でも活用できると思いました
- ・ 年齢によってスマホやカメラなどの使用に時間がかかることが分かりました。知識とツール使用のバランスを検討する必要を感じました

改善点

- ・ <建物チェックシート>部位ごとに何ヶ所異常があったのかわかる形にすると後々シートを見てわかりやすいのでは？
- ・ とにかく色々学んで試してみることが大切だと思います。従って特に改善点はありません
- ・ 被害チェック結果から建物が危険か、立ち入り禁止区域にすることが必要かを判断する方法、基準が分かりづらい
- ・ 被害チェックでどこに注目すべきか分かりづらい
- ・ 安全のため即断できる（直ちに結果回答）目安、手順も必要と思う
- ・ 強いて申し上げれば、iPhone の演習時の人数割当（適当に割り振ってもらう方が良い）
- ・ メールが使えない場合の対応・ツールに慣れていないと急には難しいかもしれない・暗闇で一人だと難しい

3.4.6 現地本部運営講習会

現地本部運営講習会は、現地本部の役割や災害対応の流れ、災害・被害情報等の取り扱い方等を学ぶことを目的とし、西口地域で実施する西口現地本部訓練および東口地域で実施する東口現地本部設置・運営訓練の事前研修に位置付け実施した。以下に実施概要および実施状況（図 23）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表 18、表 19 および図 24 に示す。

- ・ 題目：現地本部運営講習会
- ・ 目的：現地本部の役割や災害対応の流れ、災害・被害情報等の取り扱い方等を学ぶ
- ・ 日時：2017 年 10 月 18 日（水）13:30～16:30
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟 28 階 第 1・第 2 会議室
- ・ 講師：減災アトリエ主宰、(一社)減災ラボ 代表理事 総務省消防庁防災図上訓練指導員 鈴木 光 氏
- ・ 参加人数：20 名
- ・ プログラム
 - 1) あいさつ、講習会の進め方の説明等
 - 2) ゲーム形式で学ぶ、現地本部の運営
 - 3) ふりかえり、講評等

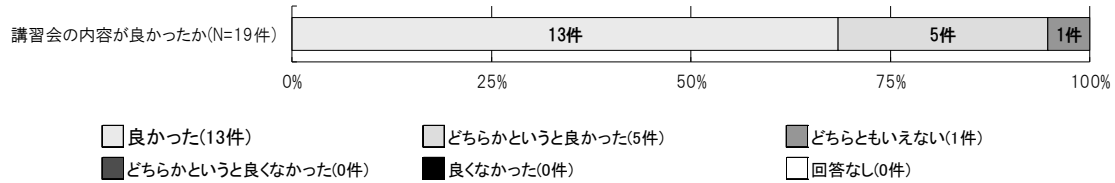


図 23 現地本部運営講習会の実施状況

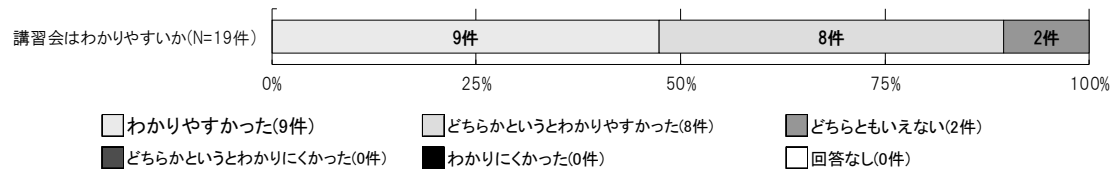
表 18 現地本部運営講習会アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
20 名	19 名	95%

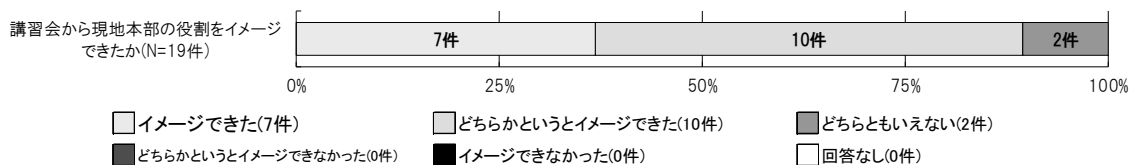
Q1. 講習会の内容はいかがでしたか？



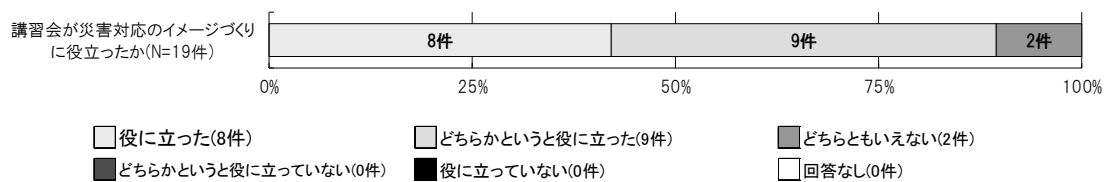
Q2. 講習会のわかりやすさはいかがでしたか？



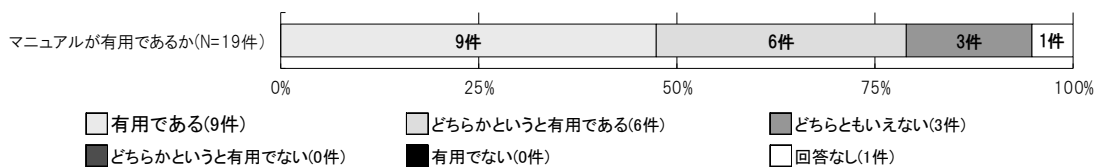
Q3. 本日の講習会を通して西口現地本部の役割や機能をイメージすることができましたか？



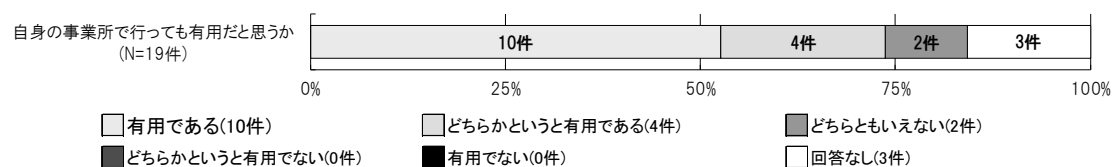
Q4. 本日の講習会が、新宿駅周辺地域で起きる地震被害や地域で必要となる災害対応のイメージづくりに役立ちましたか？



Q5. 「新宿駅現地本部運営マニュアル【西口現地本部版】」は、有用だと思いましたか？



Q10. 今回の研修のやり方で場面設定等を変えれば貴事務所の防災関係の社員研修等でも有用だと思われますか？



Q11. 貴事務所でもやってみたいと思いましたか？

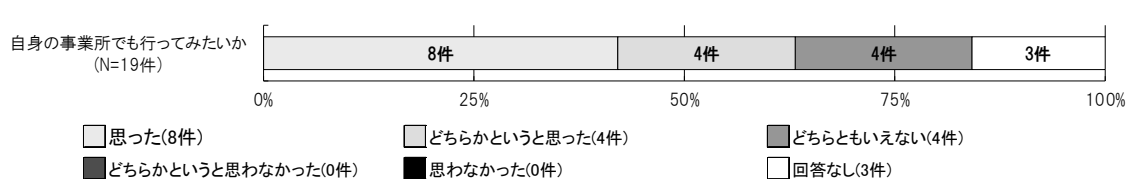


図 24 現地本部運営講習会アンケート調査結果概要(1)

表 19 現地本部運営講習会アンケート調査結果概要(2)

災害時に西口現地本部を機能させ、地域で有効に活用していくためのアイデア等

- ・ 参集手順を明確にしてほしい
- ・ 東口現地本部との連携、ボランティアに事故が発生した場合の責任の明確化の検討をお願いします
- ・ 視覚情報が大切だと思います。以前実施したドローンの活用は有効だと思います
- ・ 区役所ではなく現地本部に情報と権限が集まる体制にすべき。訓練を地道にやり続けて浸透させていくことでしょうか？

西口現地本部の役割や活動について改善すべきと感じた点

- ・ 東口現地本部との連携、ボランティアに事故が発生した場合の責任の明確化の検討をお願いします
- ・ 初参加なのでこれから考えます

本講習会の改善点

- ・ とにかく、やってみることが大切です。どのような形になっていくかわかりませんが、今後とも継続させていくべきだと思います
- ・ 防災訓練（本部訓練）の手法としてはいいと思います。できれば、具体的な設定をもう少し入れてもらいたい

3.4.7 帰宅困難者一時滞在施設運営講習会

帰宅困難者一時滞在施設運営講習会は、震災発生時の各施設における一時滞在施設運営の理解を深めるとともに、一時滞在施設運営マニュアルの整備に資することを目的とし、新宿区と一時滞在施設に係る協定を結ぶ団体、事業所を対象に実施した。以下に実施概要および実施状況（図 25）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表 20、表 21 および図 26 に示す。

- ・ 題目：帰宅困難者一時滞在施設運営講習会
- ・ 目的：震災発生時の各施設における一時滞在施設運営の理解を深める
- ・ 日時：2018 年 2 月 1 日（木）14:00～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟 2 8 階 第 1 ・ 第 2 会議室
- ・ 参加人数：18 名
- ・ プログラム
 - 1) あいさつ、趣旨説明
 - 2) 参加者団体自己紹介
 - 3) マニュアル、キット等の概要説明
 - 4) 図上演習
一時滞在施設の立ち上げ、運営
 - 5) 意見交換、質疑応答

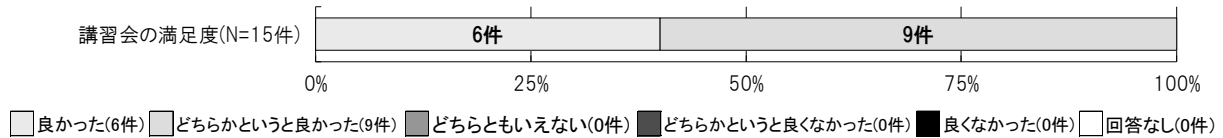


図 25 帰宅困難者一時滞在施設運営講習会の実施状況

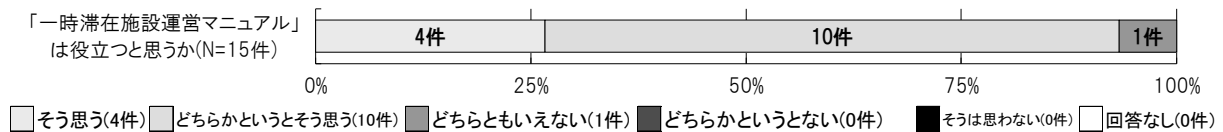
表 20 帰宅困難者一時滞在施設運営アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
18 名	15 名	83%

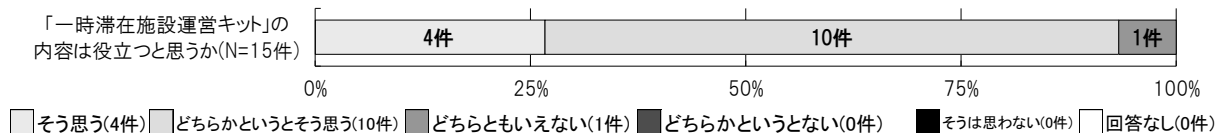
Q1. 本日の講習会に参加していかがでしたか？



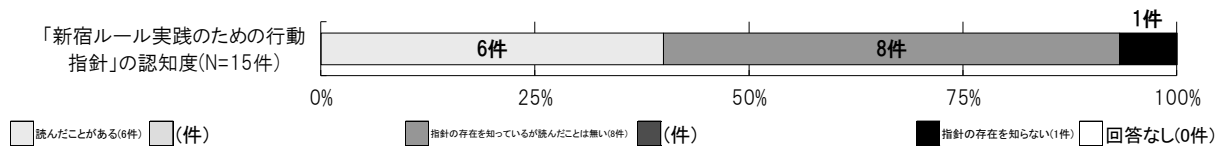
Q2. 「一時滞在施設運営マニュアル」の内容は、参加者のみなさんの所属組織における、一時滞在施設に役立つと思いますか？



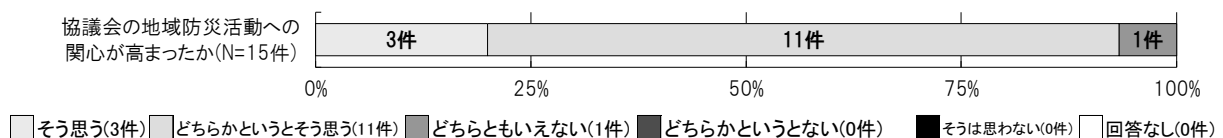
Q3. 「一時滞在施設運営キット」の内容は、参加者のみなさんの所属組織における、一時滞在施設の立上げ・運営に役立つと思いますか？



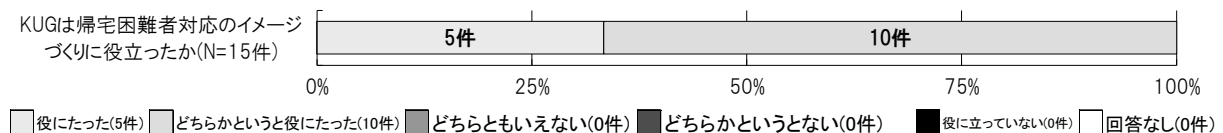
Q4. 新宿駅周辺防災対策協議会で平成 28 年 6 月に策定した「新宿ルール実践のための行動指針」を読んだことがありますか？



Q5. 本日の講習会に参加して、新宿駅周辺防災対策協議会が行っている地域防災活動への関心はたかまりましたか？



Q6. KUG は、帰宅困難者への対応のイメージづくりに役立ちましたか？



Q7. ゲームの運営・進行上、分かりにくい点、改善の必要な点がありましたか？

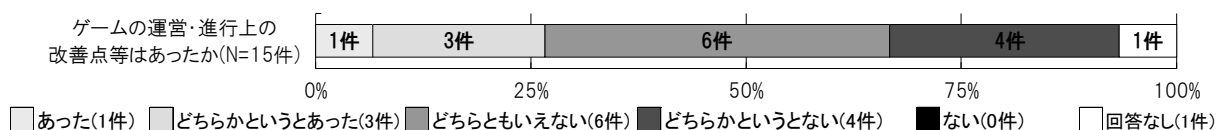


図 26 帰宅困難者一時滞在施設運営アンケート調査結果概要(1)

表 21 帰宅困難者一時滞在施設運営アンケート調査結果概要(2)

ゲームの運営・進行上の改善点

- ・ 建物被害等の前提条件
- ・ もう少し想定が細かいと良かった
- ・ 想定者はバラけさせた方がよい
- ・ 通し番号があるので、コマに病状等が書いてあるといいかもしれません
- ・ 帰宅困難者コマを貼るのが少し手間でした（テープを切る作業）。コマに両面テープが貼ってあれば良い

ご意見・ご要望

- ・ 受入れ運営マニュアルは未作成ですが、これを参考に検討してみたい
- ・ 色々な意見・課題が共有できました
- ・ 本日は参考になりました。ありがとうございました
- ・ 同様のビルと情報交換ができてよかった

3.5 イベントの概要

3.5.1 実施概要

平成 29 年度のイベントは、新宿防災ウィークとして地域の事業所勤務者等の不特定多数を対象に、訓練実施日を含む 16 日間に地域で様々な防災関連イベントを実施した。平成 29 年度の新宿防災ウィーク実施概要を以下に示す。新宿防災ウィークの中で行った『新宿ルール実践のための行動指針』周知啓発キャンペーンのポスターを図 27 に示す。

(1) 目的

- ・ 中心市街地や高層建物などの特性を理解し、災害や防災への関心を高めて地域防災活動への参加を促進する

(2) 実施方針

- ・ 新宿駅周辺地域で体験型のイベント等を展開し、『新宿ルール実践のための行動指針』周知啓発キャンペーンを効果的に広報する
- ・ 「新宿ならではの防災」に掛けて、協議会会員以外の団体等も巻き込みながら『できる人が、できる事を、みんなでやる』をコンセプトに顔の見える関係をつくる

(3) 主な対象

- ・ 地域の事業所勤務者・学生・来街者・一般市民等の不特定多数

(4) 実施テーマ

- ・ 体験イベント
→ 防災備蓄品を活用した炊き出し、防災コミュニケーションツール体験
- ・ 講演会
→ 長周期地震動、災害医療
- ・ 展示
→ 協議会活動の紹介

(5) 実施期間

- ・ 2017 年 11 月 6 日（月）～22 日（水）

(6) 協力団体

- ・ 東京都、新宿区、学校法人新宿学園新宿調理師専門学校、学校法人工学院大学、一般社団法人新宿区医師会（順不同）

※文部科学省 私立大学研究ブランディング事業と連携して実施

混雑は、混乱に
なりやすいから。



揺れた時、
なるべく
その場に
留まろう。



その場が
だめなら、
駅よりも
公園に行こう。



新宿駅周辺防災対策協議会（事務局：新宿区） 詳しくは → https://www.city.shinjuku.lg.jp/anzen/kikikanri01_000109.html



図 27 新宿ルール実践のための行動指針』周知啓発キャンペーンのポスター

3.5.2 体験イベント①

体験イベントとして、ドローンや携帯端末アプリ、VR と連動する地震動シミュレーターなど、防災のコミュニケーションを活性化する最先端のツールや活用手法を紹介するイベントを実施した。以下に実施概要および実施状況（図 28）を示す。

- ・ 題目：“新宿ならではの” 防災コミュニケーションツール
- ・ 日時：2017 年 11 月 6 日（金）10:00～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 1 階 アトリウム
- ・ 主催：新宿駅周辺防災対策協議会
- ・ 協力機関と主な出展内容（順不同）
 - 新宿駅周辺防災対策協議会：協議会 10 年の歩み
 - アールシーソリューション株式会社：多言語対応防災アプリ
 - 合同会社グローバルリンク：避難所開設キット
 - 株式会社理経：避難 VR シミュレーター
 - 損害保険ジャパン日本興亜株式会社：ドローン
 - 白山工業株式会社：地震動シミュレータ（VR）
 - 東京都総合防災部：帰宅困難者対策・備蓄品



図 28 体験イベント「“新宿ならではの” 防災コミュニケーションツール」の実施状況

3.5.3 体験イベント②

体験イベントとして、学校法人新宿学園新宿調理師専門学校との協力を得て、備蓄品（東京都提供：650食分）を活用した炊き出しを実施し300食を提供した。以下に実施概要および実施状況（図29）を示す。

- ・ 題目：“新宿ならではの”炊き出し
- ・ 日時：2017年11月17日（金）11:30～13:00
- ・ 会場：学校法人新宿学園 新宿調理師専門学校 玄関前
- ・ 主催：新宿駅周辺防災対策協議会
- ・ 協力：学校法人新宿学園新宿調理師専門学校、東京都



図 29 体験イベント「“新宿ならではの”炊き出し」の実施状況

3.5.4 講演会①

長周期地震動による高層ビル被害と対策、気象庁の長周期地震動予報など、最新の災害対策・被害予測の動向に関する講演会を実施した。以下に実施概要および実施状況（図 30）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表 22、表 23 および図 31 に示す。

- ・ 題目：長周期地震動関連の社会動向
- ・ 日時：2017 年 11 月 6 日（月）16:00～18:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟 6 階 A0611 教室
- ・ 主催：新宿駅周辺防災対策協議会
- ・ 参加者数：74 名（講師・運営者除く）
- ・ プログラム

講演① 「長周期地震動による高層ビル被害と対策」

工学院大学建築学部まちづくり学科 教授 久田 嘉章 氏

講演② 「知っていますか？長周期地震動階級～高層ビルに活かす地震防災情報～」

気象庁地震火山部管理課地震津波防災対策室調査官 草野 利夫 氏

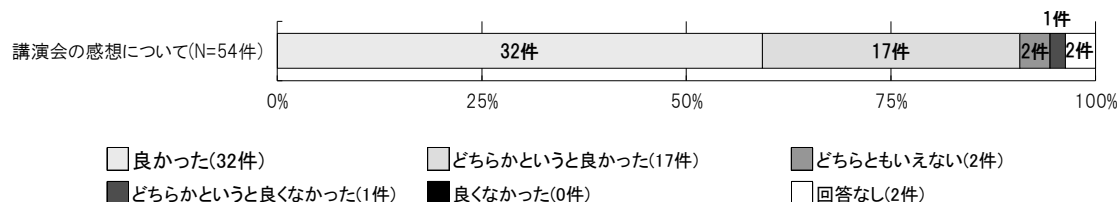


図 30 講演会「長周期地震動関連の社会動向」の実施状況

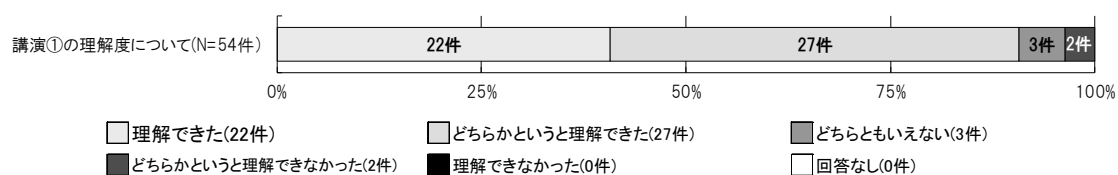
表 22 講演会「長周期地震動関連の社会動向」アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
74 名	54 名	73%

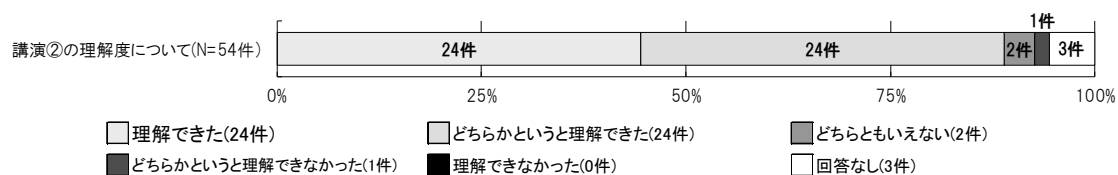
Q1. 本日の講演会はいかがでしたか？



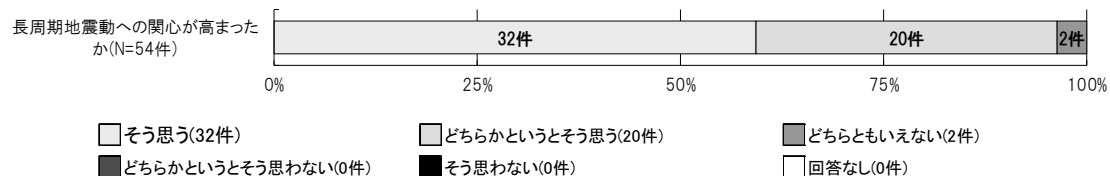
Q2. 講演①「長周期地震動による高層ビル被害と対策」の内容について理解できましたか？



Q3. 講演②「知ってますか？長周期地震動階級～高層ビルに活かす地震防災情報～」の内容について理解できましたか？



Q4. 本日の講演会に参加して、長周期地震動への関心は高まりましたか？



Q5. 本日の講演会の内容は、参加者の皆様の所属組織の危機管理対応力向上に役立つと思いますか？

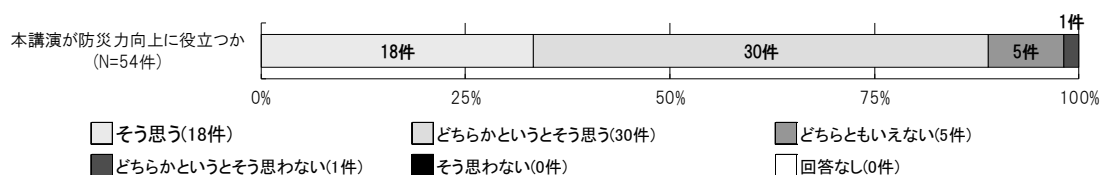


図 31 講演会「長周期地震動関連の社会動向」アンケート調査結果概要(1)

表 23 講演会「長周期地震動関連の社会動向」アンケート調査結果概要(2)

講演会に参加しようと思われた理由

- ・ 地震動について大きく興味を持っていたため
- ・ 大都市の防災に興味があったため
- ・ 建築士会新宿支部に所属
- ・ 知識を得るため
- ・ ビルからの案内があったので
- ・ 教授の講演のため
- ・ 教授の講演のため
- ・ TAの授業後の開催であったこと、地震動について学んでいること
- ・ 白山工業の1階展示「地震ザブトン x VR」の展示サポートで来校。せっかくなので、講演会も聴講させていただいた
- ・ 長周期地震動に興味があったため
- ・ 構造系の研究室に属しているため
- ・ 地震動のことについてもっと知れると思ったため
- ・ 講義の一環として
- ・ NHKの番組が大きなインパクトがあり、現在の建物にどのような影響があるのか知りたかった
- ・ 長周期地震動についての情報を広く得たかった
- ・ 現職務に関係があるから
- ・ 長周期地震動について詳しく知りたかったため
- ・ さいたま市で防災アドバイザーをやっており、高層建築物も増えるので興味があった
- ・ 知らなかったことを知り災害時に死ぬ確率を下げるため
- ・ 社内で大震災対策担当をしているため
- ・ 立川市民が市民のための財政白書を作成しています。市民への情報提供のための情報入手
- ・ BCP対策を検討中
- ・ 興味
- ・ 情報処理演習でこのセミナーのことを知って折角の機会だから参加しようと思いました
- ・ 構造に関する知識を深めるため
- ・ 授業で学んだことをより理解するため
- ・ 授業で長周期地震動が出てきたから
- ・ リスク対策.comのメールに取り上げられたのがきっかけ
- ・ 入居ビルの案内があり学んでおくべきだと感じたから
- ・ 地震座布団の体験と合わせて長周期パルスについての知見を得るため
- ・ NHKスペシャルの長周期パルスの番組を見て
- ・ 周知用のチラシを見て興味がわいたため
- ・ NHK「長周期パルス」がきっかけで。正しい知識を入手したかった。一階の白山工業の企画も含めて興味深い企画だと思いました
- ・ 長周期地震動について興味があった（防災ウィークでもあるので）
- ・ 南海トラフ地震対策

3.5.5 講演会②

阪神・淡路大震災当時の淡路病院における経験および映像や記録に基づく災害医療の実体験と普及活動の取組みに関する講演会を実施した。以下に実施概要および実施状況（図 32）を示す。また、参加者を対象に実施したアンケート調査結果概要を表 24、表 25 および図 33 に示す。

- ・ 題目：阪神・淡路大震災における災害医療の実体験を通して
- ・ 日時：2017 年 11 月 22 日（水）15:00～17:00
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟 28 階 第 1・第 2 会議室
- ・ 主催：新宿駅周辺防災対策協議会
- ・ 協力：一般社団法人新宿区医師会
- ・ 参加者数：36 名（講師・運営者除く）
- ・ プログラム

講演「阪神・淡路大震災における災害医療の実体験を通して」

神戸百年記念病院心臓大血管疾患リハビリテーションセンター長兼内科部長 水谷 和郎 氏

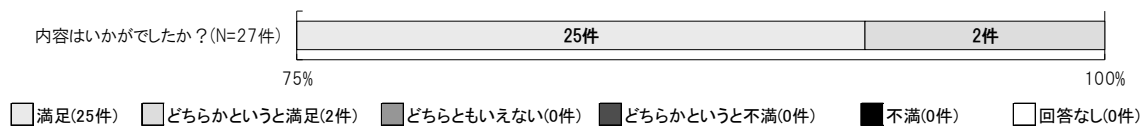


図 32 講演会「阪神・淡路大震災における災害医療の実体験を通して」の実施状況

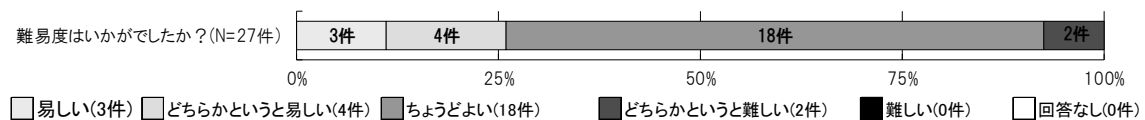
表 24 講演会「阪神・淡路大震災における災害医療の実体験を通して」アンケート調査回収状況

参加者数	回収数	回収率
36 名	27 名	75%

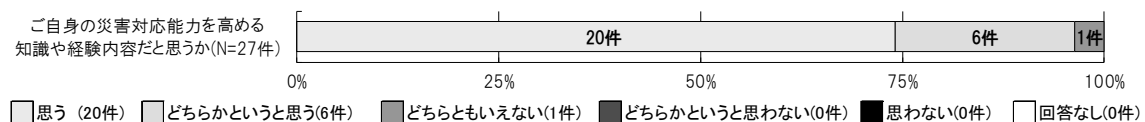
Q1. 内容はいかがでしたか？



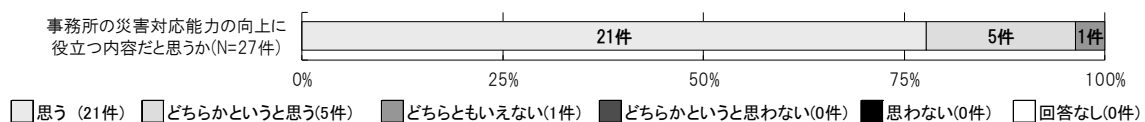
Q2. 難易度はいかがでしたか？



Q3. ご自身の災害対応能力を高める知識や経験を得られたと思いますか？



Q4. 事業所(お勤め先)の災害対応力の向上に役立つ内容だと思いますか？



Q5. 地域防災力の向上に役立つ内容だと思いますか？

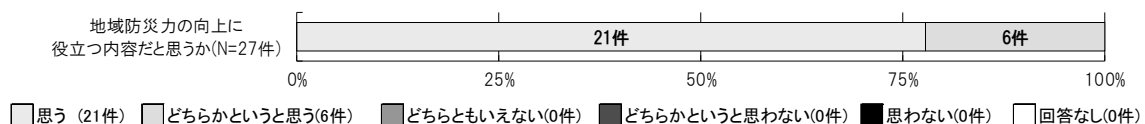


図 33 講演会「阪神・淡路大震災における災害医療の実体験を通して」アンケート調査結果概要(1)

表 25 講演会「阪神・淡路大震災における災害医療の実体験を通して」アンケート調査結果概要(2)

講演会についての感想

- ・ とてもわかりやすく、かつ貴重な内容で大変ありがたい
- ・ とても良い機会となりました
- ・ 実際の映像がみられて良かった。災害時における動きが分かり良かった
- ・ 映像を見て、災害時にはいかに指揮命令を行えるリーダーの重要性を感じた
- ・ 災害発生時の生の声や映像、感想に触れられて良かった
- ・ 映像を交えてお話で大変参考になりました。
- ・ トリアージの難しさを含めて「考える」が出来る様、日頃から考えていく必要を感じた
- ・ すごく良かった
- ・ 防災を学び始めてまだ間も無く知識が浅い段階でしたので阪神・淡路大震災の当時の状況と
その中での良い点、教訓など全てが新しい知識であり、刺激となりました
- ・ VTR 見せていただいたことはとても参考になりました
- ・ 大変良かったです
- ・ 非常に心に残る講演でした
- ・ とても有意義でした。今日の話を役立てたいと思います
- ・ 大震災に於ける災害医療の大変さを認識し、多くのヒントをいただきました。日常にいか
に、非日常の災害医療訓練を取り入れることが必要と思いました。トリアージ訓練を応急手
当と一緒にすることが必要と思いました
- ・ 災害医療の現場に触れられてとても満足でした。ありがとうございました
- ・ ビデオの映像記録は大変良かった。サリンの映像記録は大変良かった
- ・ 1. 医療側から災害現場を捉えた貴重なビデオだと思います。22 年前の災害ではありますが
今日のものと比較しても役立つことが多く記録されてると思います。2. この様な講演は、
多くの医療者に見てもらいたいと思います。水谷先生のご努力に御礼申し上げます
- ・ 災害対応力を身に付ける必要性を痛感しました
- ・ すばらしい内容です

3.5.6 企画展示

新宿駅周辺防災対策協議会の10年間に及ぶ活動の振り返り、および地元企業等のCSR活動・防災活動等を紹介するパネル展示を実施した。以下に実施概要および実施状況（図 34）を示す。

- ・ 題目：協議会活動の10年ーそしてこれからー
- ・ 期間：2017年11月6日（月）～16日（木）
- ・ 会場：工学院大学新宿キャンパス1階 アトリウム
- ・ 主催：新宿駅周辺防災対策協議会



図 34 企画展示の実施状況

3.6 総合防災訓練の概要

3.6.1 訓練の目的

首都直下地震発生時の人口・商業業務機能が集中する新宿駅周辺地域における混乱防止と被害軽減に向けて、地域や防災関係機関の連携強化および自助・共助を基本とする地域防災力の向上を図るため、実践的な訓練を新宿駅東口地域および西口地域において実施した。

3.6.2 基本方針

「新宿モデル」（情報収集伝達、避難誘導支援、医療連携、建物安全確認のしくみづくり）の実現に向けて、新宿駅周辺防災対策協議会を中心に各事業者や施設等における災害対応、地域連携による情報収集伝達や医療救護などの「自助」および「共助」を基本とする訓練とする。

3.6.3 訓練実施概要

本訓練では、首都直下地震による発災直後の状況および発災後一定程度時間が経過した状況を想定し、東西それぞれの地域特性に応じた場面設定に基づき訓練を実施した。表 26、図 35 に新宿駅東口地域地震防災訓練の実施概要および訓練実施状況、表 27、表 28、図 36 には新宿駅西口地域地震防災訓練の実施概要および訓練実施状況を示す。

(1) 新宿駅東口地域

- ・ 訓練名称：平成 29 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 新宿駅東口地域地震防災訓練
- ・ 重点目標：「新宿ルール実践のための行動指針」に基づき、発災時の東口地域における情報共有及び負傷者対応の訓練により、地域の防災力向上を目指す
- ・ 日 時：平成 29 年 11 月 16 日（金）14:00～16:50
- ・ 場 所：東京都健康プラザ ハイジア 1 階（新宿区歌舞伎町 2-4-1）
大久保公園（新宿区歌舞伎町 2 丁目 43 番）
- ・ 内 容：東口現地本部情報共有訓練、負傷者対応訓練
- ・ 参加者数：約 150 名
- ・ 参加団体：約 20 団体

(2) 新宿駅西口地域

- ・ 訓練名称：平成 29 年度 新宿駅周辺防災対策協議会 新宿駅西口地域地震防災訓練
- ・ 重点目標：・ 講習会等で身につけた災害対応能力を活かし、事業所や地域で災害対応活動を総合的に実践できるようにする
・ 「新宿ルール実践のための行動指針」を訓練に活用し検証を行う
- ・ 日 時：平成 29 年 9 月 7 日（木）13:30～17:00（多数傷病者対応訓練）
平成 29 年 11 月 8 日（水）13:30～17:00（自衛消防訓練・西口現地本部訓練）
- ・ 場 所：新宿駅西口広場イベントコーナー A 2 ゾーン（新宿区西新宿 1）
工学院大学 新宿キャンパス（新宿区西新宿 1-2-4-2）、他
- ・ 内 容：自衛消防訓練（震災対応訓練）、医療救護訓練、西口現地本部訓練
- ・ 参加者数：約 100 名
- ・ 参加団体：約 50 団体

【参加及び協力団体】

新宿駅周辺防災対策協議会参加団体及び関係事業所、新宿区医師会、大久保病院、日本赤十字社東京都支部、新宿消防署、四谷消防署、新宿警察署、四谷警察署、工学院大学、東京都健康プラザハイジア、東京都、東京建築士会新宿支部、危機管理対策機構、鯉沢工学研究所、白山工業株式会社、株式会社セノン（順不同）

表 26 平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会 新宿駅東口地域地震防災訓練の実施概要

訓練説明会		日時：11月6日（月）14:00～16:30 会場：新宿区役所第一分庁舎7階会議室 内容：現地本部設置、運営手順確認（進行役より、現地本部の設置、ボードのレイアウト、共有シート活用方法、ボード、地図の記載方法、SNSによる情報共有の仕方及び運営ルールを説明するとともに、模擬体験して理解する）
訓練	東口現地本部 情報共有訓練	日時：11月16日（木）14:00～15:20 会場：東京都健康プラザ ハイジア1階 <u>場面設定</u> ・日時:平成29年11月16日(木)午後2時発災 ・震度:都内で震度6強以上の地震が発生 ・規模:M7.3 震源地:東京湾北部 <u>参加者数</u>（運営参加者を除く） 約100名 <u>実施項目</u> ・東口現地本部設置、運用（区役所第一分庁舎1階と見立てたスペースで実施） ・ボードを活用した情報共有 ・SNSを活用した情報共有 ・防災無線等を活用した西口及び新宿区災対本部との情報共有（今年度は実際の無線通信は行わない）
	負傷者対応訓練	日時：11月16日（木）15:20～16:50 会場：大久保公園 <u>場面設定</u> ・日時:平成29年11月16日(木)午後2時発災 ・震度:都内で震度6強以上の地震が発生 ・規模:M7.3 震源地:東京湾北部 <u>参加者数</u>（運営参加者を除く） 約100名 <u>実施項目</u> ・各事業所、応急救護所、応急手当所、医療機関と見立てたスペースでのアクションカードを用いた災害医療への協力 ・模擬負傷者発生 ・傷病者の選別 ・救出 ・搬送 ・トリアージ ・医療処置（重傷者） ・応急処置（軽症者）
訓練検証会		日時：12月13日（水）15:00～17:00 会場：新宿区役所本庁舎5階大会議室 目的：地震防災訓練の実施内容をふりかえり成果と課題を検証する 参加者数（運営参加者を除く）：約20名 内容 ・訓練報告・意見交換 ・質疑応答

表 27 平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会 新宿駅西口地域地震防災訓練の実施概要(1)

訓練 説明会	多数傷病者 対応訓練	日時：8月28日（月）14:00～16:30 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟 10 階 A1015 教室 内容：訓練参加者を対象に、訓練の詳細および参加者の役割分担等を確認し、傷病者情報伝達の練習を実施
	自衛消防訓練 （震災対応訓練） ・ 西口現地本部訓練	日時：10月30日（月）14:00～16:30 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟 5 階 A0514 教室他 内容：訓練参加者を対象に、訓練の詳細および参加者の役割分担等を確認
訓練	多数傷病者 対応訓練	日時：9月7日（木）13:30～17:00 会場：新宿駅西口広場イベントコーナー A2ゾーン <u>訓練目標</u> ①多数の傷病者を想定した地域の共助による応急救護活動を行う ②地域で傷病者に対応するための情報収集伝達を行う ③地域の医療従事者と非医療従事者のコミュニケーションを図る <u>場面設定</u> ・都区部直下地震（M7.3）発災数時間後 ・発災現場付近の不特定の救護活動場所における応急救護活動 <u>参加者数</u> （運営参加者を除く） 48名 <u>実施項目</u> ・応急手当・観察記録 ・搬送 ・情報収集伝達 ・医療従事者とのコミュニケーション ・医療従事者による活動支援（医学的アドバイス）
	自衛消防訓練 （震災対応訓練）	日時：11月8日（木）13:30～16:30 会場：工学院大学新宿キャンパス 1階アトリウム <u>訓練目標</u> ①各班の役割を実践するとともに相互協力して事案に対応する ②地区隊と本部隊が情報を共有し連携して活動する ③地域の関係機関と情報を共有する <u>場面設定</u> ・都区部直下地震（M7.3）発災直後および発災数時間後 ・仮想超高層テナントビルにおける初動対応 <u>参加者数</u> （運営参加者を除く） 19名 <u>実施項目</u> ・自衛消防隊編成 ・火災対応 ・避難誘導 ・救出対応 ・傷病者対応 ・建物被害対応 ・情報収集・伝達 ・被災状況把握 ・西口現地本部との情報共有 ・帰宅困難者の受け入れ判断

表 28 平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会 新宿駅西口地域地震防災訓練の実施概要(2)

訓練	西口現地本部訓練	日時：11月8日（木）13:30～16:30 会場：工学院大学新宿キャンパス 2階、他 <u>訓練目標</u> ①西口現地本部の役割を知る ②西口現地本部運営手順を知る ③西口現地本部の実効性及び新宿駅現地本部運営マニュアル【西口現地本部版】を検証する <u>場面設定</u> ・都区部直下地震（M7.3）によるフェーズⅠ（発災）、フェーズⅡ（残留・退避）、フェーズⅢ（滞在）、フェーズⅣ（帰宅）の対応 <u>参加者数</u>（運営参加者を除く） 39名 <u>実施項目</u> 【発災】フェーズⅠ ・西口現地本部の立ち上げ・開設 ・地域内ビル防災センターや関係機関との情報連絡・情報共有 ・滞留者の避難誘導先の情報提供 【残留・退避】フェーズⅡ ・新宿駅周辺地域および広域の被災状況の把握 ・地域内ビル防災センターや関係機関との情報共有 ・ゲリラ豪雨予報 ・本部会議（新宿区災害対策本部との協議） 【滞在】フェーズⅢ ・各施設の滞留者受入れ可否状況の把握 ・一時滞在施設情報の情報提供 ・ボランティアや専門家の派遣に必要な情報の把握 ・物資や人材等の調整 ・本部会議（マッチング方針） 【帰宅】フェーズⅣ ・鉄道再開情報の共有 ・一時滞在施設の順次閉鎖、帰宅開始
	講評会	日時：11月8日（木）16:30～17:00 会場：工学院大学新宿キャンパス 3階アーバンテックホール 内容：自衛消防訓練および西口現地本部訓練の講評およびアンケート調査
	訓練検証会	日時：12月8日（金）14:00～16:30 会場：工学院大学新宿キャンパス 高層棟28階 第1会議室 目的：地震防災訓練の実施内容をふりかえり成果と課題を検証する 参加者数（運営参加者を除く）：28名 内容 ・訓練実施報告 ①多数傷病者対応訓練 ②自衛消防訓練 ③西口現地本部訓練 ・訓練の検証（ワークショップ）



図 35 新宿駅東口地域地震防災訓練の実施状況（左上・右上：東口現地本部情報共有訓練、左下・右下：負傷者対応訓練）



図 36 新宿駅西口地域地震防災訓練の実施状況（左上：多数傷病者対応訓練、右上：自衛消防訓練（震災対応訓練）、左下：西口現地本部訓練、右下：訓練検証会）

3.7 ホームページによる情報発信

新宿駅周辺防災対策協議会のホームページ（図 37）^[40]において、平成 29 年度の活動予定、セミナー、講習会等の開催告知、活動履歴および公開可能な配布資料を掲載し、協議会活動に関する情報発信を行った。

The image shows two screenshots of a web browser displaying the homepage and an agenda page of the Kouzou CC Kogakuin AC website.

Homepage (Top Screenshot):

- URL: kouzou.cc.kogakuin.ac.jp/ssa_bousai/index.html
- Navigation menu: TOP PAGE, 概要, 活動報告, 西口地域, 東口地域, 構成団体, 総会・セミナー・講習会, お問い合わせ
- Main image: Aerial view of the Shinjuku cityscape.
- Section: 年間予定 (Annual Schedule)
- Text: 年間予定は下記のリンクからご確認ください。
- Link: [平成29年度 活動スケジュール\(2017/10/5更新\)](#)

Agenda Page (Bottom Screenshot):

- URL: kouzou.cc.kogakuin.ac.jp/ssa_bousai/contents.html#29-0
- Section: 平成29年度(2017)新宿駅周辺防災対策協議会 総会
- Table with 4 columns: 日付 (Date), タイトル (Title), 次第 (Order), プログラム (Program).

日付	タイトル	次第	プログラム
2017年 6/1(木) 13:00 ～ 15:15	平成29年度(2017) 新宿駅周辺防災対策協議会 総会	- 平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会活動報告 新宿駅周辺防災対策協議会活動報告 宮崎 明弘 氏 東口地域部会活動報告 細坪 信二 氏 西口地域部会活動報告 久田 嘉章 氏 - 議案 - 平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会会長の選任 - 平成29年度 新宿駅周辺防災対策協議会副会長の選任 - 平成29年度 構成団体名簿(案) - 平成29年度 活動計画(案) (議案書) (構成団体名簿案) (活動計画案) (周知啓発活動案) (H29協議会スケジュール案) - 崎沢 曜 氏 - 鯨井 庸司 氏 - その他報告事項 ドローン実証実験報告 東京都民間一時滞在施設備蓄品購入費用補助事業 - 講演 新宿駅周辺のまちづくり 森 孝司 氏	

図 37 新宿駅周辺防災対策協議会Webサイト
(http://kouzou.cc.kogakuin.ac.jp/ssa_bousai/index.html)